【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

8. 会議の経過

令和7年6月17日（火）午前10時05分開議

○委員長（山下佳代君） ただいまから環境都市常任委員会を開会いたします。

本日は、今定例会において付託されました議案6件について審査いたします。

これより議案について審査いたします。

議案第8号及び議案第9号を一括して審査いたします。

議案第8号、我孫子市景観条例の全部を改正する条例の制定について、議案第9号、我孫子市太陽光発電設備の適正な設置を図るための手続に関する条例を廃止する条例の制定について、当局の説明を求めます。

○都市計画課主幹（沼崎智君） 議案第8号、我孫子市景観条例の全部を改正する条例の制定について、初めに御説明いたします。

議案書の49ページを御覧ください。

提案理由です。

我孫子市景観計画の改定に合わせて、届出が必要な行為等に関する事項を改め、及び我孫子市太陽光発電設備の適正な設置を図るための手続に関する条例に規定されている太陽光発電設備の設置の自粛の要請に係る規定をこの条例に規定するとともに、条文を整備するため提案するものです。

続けて、議案第9号、我孫子市太陽光発電設備の適正な設置を図るための手続に関する条例を廃止する条例の制定について御説明いたします。

議案書の61ページを御覧ください。

提案理由です。

再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法が一部改正され、太陽光発電設備の設置に係る近隣関係者への周知義務が同法に規定されたことから、条例の規定が重複することを踏まえ、同法の規定と重複しない太陽光発電設備の設置の自粛の要請に係る規定を我孫子市景観条例に規定することとしたことから、条例を廃止するため提案するものです。

では、8号と9号を合わせて御説明いたします。

議案資料の4ページを御覧ください。

項目の1、景観条例の改正に関わる景観計画区域内の分類の見直しについて御説明します。

景観法の規定により、景観計画で定めることとされている景観計画区域につきまして、今年の5月に改定いたしました我孫子市景観計画では、引き続き市内全域を景観計画区域とし、景観の特性及び課題や上位計画、関連計画での位置づけ、都市計画による土地利用規制の違い等を踏まえ、区域内の分類を資料に記載のとおり見直しました。

大きな変更点といたしましては、改定前の計画で重点的に景観形成を進めていく地区に位置づけ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

た手賀沼沿いの手賀ふれあいライン特定地区を手賀沼景観重点地区に名称を改めまして、区域内に公園坂通りの沿道を加えた上で4つのエリアに細分化し、各エリアの特性に応じた景観づくりの基準を定めることで、きめ細やかな景観形成を図ることとしました。

また、改定前の国道6号商業地区と一般地区を景観の特性等に応じて、商工業景観ゾーン、住宅景観ゾーン、自然田園景観ゾーンの3つに分類しました。

議案資料の5ページを御覧ください。

項目の2、景観条例の主な改正事項について御説明します。

1点目は、景観法に基づく届出が必要な行為と、条例で市独自に届出を求める屋外広告物の見直しです。

景観法に基づく届出が必要な行為については、景観法の中に大まかなメニューが示されておりまして、その詳細を市町村の条例で定めることができるとされています。経過を見る場所、視点場を意識し、手賀沼の対岸、柏市側から見た手賀沼の水面や周辺の緑と調和した市街地の形成や、利根川沿いから見た農地や斜面林の一団の緑の眺望の保全、そして都市計画マスタープランで市の交流拠点に位置づけた我孫子新田地区や高野山新田地区が該当する手賀沼沿い交流エリアや、公園坂通りエリア訪れた人に向けた魅力ある空間づくりを特に重視し、これに影響を及ぼし得る行為や規模等を区域ごとに見直します。

また、届出が必要な行為に野立ての太陽光発電設備を追加します。

このページに掲載されている表を御覧ください。

届出が必要な行為がほかの区域よりも幅広くなるものに下線を引いてあります。特に手賀沼景観重点地区では、小規模な建築物や屋外広告物についても対象とします。なお届出が必要な行為は、景観計画で定める色彩などの行為制限の基準への適合が必要となります。

議案資料の6ページを御覧ください。

主な改正事項の2点目、野立ての太陽光発電設備の設置の自粛要請に係る規定の追加について御説明します。

これまで我孫子市太陽光発電設備の適正な設置を図るための手続に関する条例に、良好な景観の保全などを目的として、特定の区域内における野立ての太陽光発電設備の設置の自粛要請に関する事項を規定してきましたが、自粛要請は主な目的が良好な景観の保全であることから、景観条例に規定し景観法で定める手続等々一元的に運用することとします。

なお、自粛要請の対象区域には、手賀沼景観重点地区の地区内、手賀沼沿い斜面林条例に規定する指定斜面林、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域内の斜面地、そして景観計画に定める特色ある自然景観を有する区域として、谷津ミュージアム事業エリアの上流部及び中流部の一部がこれに該当します。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

また、紛争の予防を目的とした設置場所周辺の住民等への事業計画の事前周知に係る事項については、令和6年4月に施行された再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法において規定され、このページに記載されております表のとおり、条例よりもより広い範囲の住民の皆さんへの説明が事業者により義務づけられました。

このように、我孫子市太陽光発電設備の適正な設置を図るための手続に関する条例に規定している2つの事項が、それぞれほかの法令や条例に含まれることとなったことから、我孫子市太陽光発電設備の適正な設置を図るための手続に関する条例を景観条例の改正と併せて廃止することといたします。

この景観条例の改正と、太陽光発電の条例に関する廃止につきましては、施行期日は令和8年1月1日を予定しております。

以上で説明を終わります。十分な御審議の上、御可決いただきますようお願いいたします。

○委員長（山下佳代君） 以上で説明は終わりました。

これより議案第8号及び議案第9号について質疑を許します。

○委員（茅野理君） 議案第8号のほうですけれども、今回全面改正ということで、いわゆる新規条例とは違いますけれども、全面改正であり、また第27条ですね、最後の規定で規則への委任事項というのがあるわけですね。こういった中で、私はこれまでもやはりこういう改正があった際には、あるいは新規条例を出すときは、しっかりその施行規則案を議案資料として出すべきだということはずっと言っているわけですね。それ、これまで守っていただいていたわけですよ。

今回は、委員長のほうから資料請求していただいて、委員の皆さんにデータとして配付しているわけですね。この辺、今まで守ってこられたことが、今回規則を出さなかったこと、私非常に、それで慎重審議しろというところがおかしいと思っているんですよね。その辺いかがでしょうか。なかなか担当課だけの問題ではないと思うんですけど。いかがでしょうか。

○都市計画課長（林宏規君） 規則についても、やはり条例とセットで検討はしてきました。庁内でも、行政管理課さんとも協議していて、この規則につきましては、まだやはり変わり得るものだということがありますので、議案の資料として一括してお見せするということがなかなかできないということで、今回、資料請求という形で申入れいただきまして、今検討している規則の中身の概要をお知らせしたという次第でございます。

○委員（茅野理君） その辺のスタンスがおかしいって言っているわけですね。

やはり議案資料として出すように、私お願いしてきて、これまでそういうふうに改善されたんですよ。この条文の中でも28か所、規則に定めるところによるというようなところで規定もありますし、先ほど言ったように最後、委任事項ということであるわけですから、これは事前に議会側に出すのは私、当然だと思うんですね。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

これまでは、案として出していたのにもかかわらず、今回は資料請求しないと出せなかったというところがおかしいという話をしているわけで、その辺、林課長ともやり取りはしてきているわけですが、副市長いかがでしょうか、今回のこの対応について。

○副市長（渡辺健成君） 過去の経緯について私も十分に把握してなくて大変申し訳ございませんでした。今後は、規則のほうの準備の度合いもあるかと思えますけれども、審議いただくために必要な資料のほうはきちんと提出できるように準備をしたいと思えます。

○委員（茅野理君） 改めてお話しさせていただきますけど、議会側の議員個人の資料請求でもって提出するんじゃなくて、ぜひ審議に含まれる内容だということで、案として構わないので、条例に附属する規則あるいは要綱、これは提出するようにお願いをしたいと思えます。

私、議運のメンバーのときにそういう話もさせていただいて、執行部との了承を得てそういうふうにしてきたわけですから。これ組織が変わってそういうふうにならなくなったというのはおかしな話なので、ぜひ市長執行部として提出をお願いしたいと思えます。

これはもちろん市長執行部だけの問題じゃなくて、後ろに議長控えていますけれども、議会事務局としてもこれは落ち度があることだということで、しっかり資料を見て提出してもらうように対応をお願いしたいと思えます。よろしくをお願いします。

ちょっと内容に入りますけれども、今回、全面改正されたわけですが、前回の平成18年の改正の際、その前回の条文を見ますと、まず前文があったんですね。ここに非常にこの景観に対する思いというものがあるって、読み上げるとちょっと長いんですけども、前回の条文の前文として、「かつて文人たちを魅了した、手賀沼や利根川と下総台地が織りなす水辺や田園の景観は、筑波や富士を遠景に、市民の暮らしの景観を穏やかに包み込んでいる。」という、こういうふうに入らず、中略しますが、最後まとめて「わたしたち我孫子市民は、自らが主体となり、協力と参加の精神をもって、より優れた景観を次の世代へ引き継ぐため、ここに我孫子市景観条例を制定する。」といった、これは非常にもう本当に格調高い感じがするなという前文があったわけですよ。

今回全面改正で、この前文を入れなかった、盛り込まなかった理由というのは何かあるんですかね。

○景観推進室長（沼崎智君） この前文の取扱いに関するものなんですけれども、この前文に書かれている内容は、我孫子市の景観づくりをどういうふうにやっていくかという、その方針に関わることかと思えます。

実は今回の改正においては、その平成18年の景観条例の改正のときも、その前年平成17年に全面施行されたその景観法ですね、こちらのほうとの整合性というか関連性、そういったものを条例の中に設けるために、当時改正したという経緯があるんですが、今回の景観条例の改正も、景観法との関わり、こういったものをしっかり整理しつつ、我孫子市としてどのような景観づくりを進

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

めていくのかということで、必要な事項を条例のほうには盛り込みました。

その中で、この景観に関する考え方、方針というものは、景観計画のほうに記載することで、より広く市民の皆さんに分かりやすく説明したほうがよかろうというふうに判断しまして、条例のほうには前文を設けずに、景観計画のほうに、こういう考え方で我孫子市は景観づくりを進めていきますということで、整理のほうを行ったという次第になります。

○委員（茅野理君） 1月ですか、勉強会で景観計画の御説明をいただいて、そこに盛り込んだのでというようなお話でしたけれども、前回の景観形成基本計画にも同じようにはそれはあったはずなんです。それで、今回、景観計画のほうに盛り込んだのでということですが、私は別に条文の中に、市民だってそれは条文をなかなか見る機会ないかもしれないんですけど、同様にこういう盛り込んで全く問題ないと思うし、よりその条文の基本理念というものがはっきりすると思うんですけど、それはあくまでも計画に盛り込むということだけで省いてしまったということではないんですかね。

○景観推進室長（沼崎智君） 計画のほうにも、景観づくりの方針というものがうたわれておりますので、条例と計画、両方重複するような内容になってしまう部分もあるのかなと思うんですね。そうした中で、やはり条例よりは計画のほうが市民の皆さん、事業者の皆さん、目にすることも多いのかなと思いましたので、そちらに整理させていただく形で、ちょっと条例のほうからはその前文のほうを削除したという取扱いをさせていただきました。

○委員（茅野理君） そうしますと、前回の条例のほうですけれども、第4条のほうに基本理念というのを前回は盛り込んでいました。これも今回の条文では省いているんですね。ですから、随分前文も省き、いわゆる基本理念ですね、「市、市民及び事業者は、次に掲げる理念に基づき、景観形成を推進するものとする。」というところで、（1）から（6）までですね。この辺もすごく細かく、分かりやすく、条文として盛り込んでいたわけですが、今回ないわけですね。その辺はどうなんでしょうかね。

○景観推進室長（沼崎智君） この景観条例の今回の改定に当たっては、多少市の責務とか市民、事業者の役割といったものはうたっているんですけども、主に手続的な部分、景観法で規定している手続の条例で定める詳細の部分についてですとか、そちらのほうにちょっと寄せるような形で整理しておりまして、こういった基本理念的なもの、我孫子市の景観をこういうふうにこれからみんなで作っていきましょうというような部分については、景観計画のほうに景観づくりの基本目標といった項があるんですけども、そのあたりに整理するような形で、ちょっと条例については、手続ですとか、そういったルールに関する部分に寄せて、考え方、方針は景観計画のほうで書いていくというようなすみ分け整理をしたということになります。

○委員（茅野理君） その方向は理解したいと思うんですけども、あくまで計画は計画、条文は

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

条文なわけですよ。特にこの景観条例というのは、我孫子市のそういった意味では、将来の景観、まちづくりに大きく関わるものですから、ここにやはり私は思いとか基本理念というものを盛り込んでも、当然いいのかなというふうに思っていたわけですよ。

随分このところ、それこそ総合計画もさっぱりしていますし、時代なのかなというふうに理解していいのかわかりませんが、その辺が少し私は残念かなというふうに思っていて、そしたらせめて前文だけでも残すとか、基本理念でも盛り込むとかという考えに至らなかったのかなというところが、本当にちょっと残念だなというふうに思っているんですよ。

それは多分市民の中にもこういう細かくチェックするような方々は、中にはそういう思いもしている人がいるかもしれないので、ぜひその辺今後気をつけてって言っても、これまた全面改正その先になると思うんであれですけども、私としてのその思いがあるので、規則なり計画がまた見直すようなことがあれば、そこに条文にも盛り込むというような考えも持ってもらいたいなというふうに思います。まあいいです、その辺の答弁は結構です。

あと2つ、ごめんなさい。

景観形成ということで、第2条で、用語の定義をされているわけですけども。この辺は理解できるんですけど、ちょっと細かいんですけど、第1条のところ「個性のある景観の形成の推進を図り」というところで、「景観形成」という言葉じゃなくて、「景観の形成」というところで、これは何か条文の中で「景観の形成」って2か所あるんですけど、もう一か所あるんですけど、これ何か区別をしているわけですか。「景観形成」ではなく、「景観の形成」と入れたこの意味って何かあるんですかね。言葉としては問題ないんですけども、「の」が入っていることで、何か意味を変えたのかどうかというところですね。

○景観推進室長（沼崎智君） この言葉の使い方に特段の意味というものは特にございません。

○委員（茅野理君） 同じように考えてよろしいということですね。文章として読んで問題なければ、問題ないということで、特別な意味はないということで理解したいと思います。

もう一点なんですけど、いわゆるこの景観、新規条例が施行されたときに、ほかの条例で関わるところがあるわけですね。我孫子市開発行為に関する条例。この中で景観条例が含まれているところがあるわけですけども。この辺も見直しがされるわけだと思います。15条の第2項とかというふうに具体的なところが示されているわけですから、その辺の改正の今後のスケジュールというのをお示しいただければと思います。

○景観推進室長（沼崎智君） 所管している市街地整備課のほうとは、開発の条例の改正については協議のほう行っておりまして、この今、景観条例の改正後の条例の施行を来年の1月1日を予定しておりまして、まだ未確定な部分もあるんですが、今年の12月議会には開発条例の改正の議案を上程できるように、今準備のほうを進めているところとなっております。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○委員（坂巻宗男君） 私、茅野委員が最初におっしゃっていた前文がちょっとなくなってしまったねっていうのは、実は私も前の条例を見ていて、比較をしたときに非常に感じたところで。というのは先ほど茅野委員も読まれていたけど、非常に本当にいい文章なんですよね。すばらしい思いが伝わってくるもので。やはりそういう条例の系譜というか、歴史というか、そういったものはやはりぜひ引き継いでいっていただきたいと思うので。その計画の中でっていうお話はあったけれども、ぜひ、ここで全てがしっかり消えてしまうというようなことではなくて、やはりこういうふうな条文をつくって、脈々と今までの我孫子の景観をしっかりつくっていこうという市民の方の動きなんかも含めて、これ当然当時の職員の方の思いとかいろいろ入っているんだと思うんですよね。

ですから、そういうのは、ぜひ今の皆さんも、次の世代の皆さんにも引き継いでいけるようお願いをしたいと思います。これは要望です。

ちょっとその旧条文との比較というのかな、今の条例ですね、旧といいますか。今度のが新しいもの。というのの比較でいうと、前の条例では、11条と12条で特定地区というものと推進地区というものがあって、それぞれ景観形成に資するというようなことになっていたんだけど、今回について言うと、これがある意味では重点地区というものに一本化されたのかなという気もするんですが、その辺の整理というのはどういうふうになされているんでしょうか。

○景観推進室長（沼崎智君） まず現条例の特定地区につきましては、これは手賀沼ふれあいライン特定地区が該当いたしまして、新条例のほうでは手賀沼景観重点地区ということで、ちょっと名称を改めて整理したところになります。

手賀沼というワードが重点地区の前についていますけれども、あくまで手賀沼周辺に限ったものとして設定したものではありませんで、あくまでその重点地区と位置づけて、今後、手賀沼周辺以外にも何らかそういう地区を設ける必要が生じたときに、新たにまた重点地区を増やすといったような、今後将来の拡張性なんかも見越して、ちょっと今回は重点地区という文言にして、景観計画のほうで、その重点地区の一つとして、手賀沼景観重点地区を位置づけるというような整理をしております。

それから、現行条例の第11条でよろしかったですか。

○委員（坂巻宗男君） 12条です。推進地区。

○景観推進室長（沼崎智君） この推進地区につきましては、ちょっとこんなことになってしまうとお恥ずかしい話なんですけど、実態としてこれまで景観形成基本計画と条例のほうに位置づけてはいたんですが、特段具体的に何かその推進地区を特出しして何か展開をするような施策展開が特になかったというところがございます。今回、その区域設定全て見直しまして、この推進地区というものは今回排除しております。

この推進地区も一つの重点地区に包含するような形で、特に景観形成推進する地区はここだよと

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

ということで、今回景観重点地区という名称にまとめて、その重点地区に合った基準、そういったものを適用して、ちょっとほかの場所とは違った、特に重点的に景観を推進していこうというふうに整理のほうを行いました。

○委員（坂巻宗男君） 了解しました。いわゆる特定地区が重点地区に移って、それを4つに細分化をしたのが今回の計画であり条例になるということですよ。

この条例というのは、提案理由にもあるように景観計画というものが先んじてでき上がって、これは勉強会などでも私たちは説明を受けましたけれども、それに基づいて、この条例をまた改めて整備をしたと、全部改正をしたということですよ。

この計画の中で改正の中に景観拠点の新設というものがありますね。4つの景観拠点というものを位置づけたと思うんですけども、これは、この景観条例そのものには入ってこないんでしょうか。その辺はいかがなんでしょうか。

○景観推進室長（沼崎智君） この景観条例の中には、主に景観法との関わりの中で、景観法に基づく手続ですとか、あるいはこういうことをした場合には、こういう罰則がありますよといった手続的なものを整理しているんですけども、実はその景観拠点に関しては、景観法の当てはめ外の部分で、その規制よりはもっと、この地点この場所は、特に関連する他の計画と連携しながら、保全活用を頑張っていきたいということで、景観法、景観条例の枠組みとはまた別の枠組みの中で設定したものになりまして、これはもう景観計画にしか記載がない事項というふうになります。

なので、景観拠点というふうな位置づけはしていますけれども、何かその拠点について、特別なほかとは違う何か規制がかかるというものではございませんで、基本的にかかってくる規制については景観条例で規定しているものになりまして、それに上乗せして規制以外の部分、活用とかを頑張っていきたいというような形で位置づけたものになりますので、ちょっと条例に規定するものとはまた違う性質のものになってきます。

○委員（坂巻宗男君） ただ、今の説明を聞きますと、むしろその景観の計画の中でだけ位置づけたものであるとするならば、よりこの景観条例の中で位置づけてもいいのかなというふうに思いました。

ただ、位置づけなければならないというわけではないから、景観計画との整合性という意味において、この中にちょっとその条文がないというのが、少し私なんか違和感を感じたところではあるんですけども、景観拠点、手賀沼公園及び手賀沼親水広場とその周辺が一つ、古利根沼と古利根公園・自然観察の森が一つ、岡発戸の谷津ミュージアムが一つ、それから旧井上家住宅と手賀沼干拓地が一つということで、エリアも東西に分けながら、確かにこういったものというのは我孫子の景観的な特徴、景観だけじゃないですよ。我孫子市の特徴的なものだなというふうに思いました。

それで、この条文はないんですけども、じゃ、この条例の中で、こういったものと結びつけると

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

こういった拠点がより魅力を増すのではないかという意味でいうと、例えば景観重要建造物の保全であるとか、景観重要樹木ですね、こういったもの。景観重要樹木に関して、恐らくは三樹荘が今位置づけられているというところであろうかと思うんです。景観重要建築物というのは、今はまだないんじゃないかなと思うんですけれども、こういったものなどを、やはりこの4つのエリアなどで積極的に位置づけをしていくというようなことがあると、この景観計画に位置づけたものが、条例との整合性というかな、条例を駆使してより魅力度を増していくというようなことも含めて生きてくるのかなと思うんですけども、その辺はいかがですかね。

○景観推進室長（沼崎智君） この景観重要建造物や景観重要樹木は、これは景観法のほうに規定されているものになってくるんですけども、先ほど委員おっしゃられたとおり、今、我孫子市の場合ですと、景観重要樹木は三樹荘の樹木が指定されておりまして、景観重要建造物についてはまだ指定がない状況となっております。

これについては、おっしゃるとおり、やっぱりそういった指定にされているものがあるということとは、一つそこが大事だよ、景観上重要だからみんな協力しようねという、そういうきっかけにもなってくるかと思しますので、具体的に4つの景観拠点の中で、景観重要建造物とか景観重要樹木の指定にちょうどふさわしいものがあるかどうかというところはまだ不明ですけども、その辺はちょっと今後、研究のほうはしていきたいなとは思っております。

○委員（坂巻宗男君） ぜひ、こういった条文、それは法律で位置づけられているということだから、法的な基準もあるのかもしれないんだけど、今言った4つのエリアで言えば、例えば井上家住宅などは、間違いなく我孫子市にとっての景観的な意味合いを持った重要な建造物になるんだろうと思うんですよ。

そういったことも含めて、やはり景観計画も新しくしました、景観条例も新しくしました、ついでには、具体的にこういったものが指定されましたというような動きって、やっぱり大切なことだと思うので、ぜひそういったものなんかを、せっかく4つのエリアを今回景観計画でも位置づけるわけですから、ぜひこういったものの条文をうまく駆使しながら、我孫子の景観というものが魅力度を増していくような執行をお願いしたいと思うんですけど、いかがでしょうかね。

○景観推進室長（沼崎智君） まず、景観条例のほうに景観拠点について盛り込まなかった背景につきましては、景観条例にうたう内容としては、やっぱり市民の方、事業者の方の行為の制限に関するような部分、そのあたりをやっぱり条例のほうは盛り込まなければいけないと思うんですが、景観拠点に関しては、あくまでその拠点を市の関連計画と連携を図りながら活用していきましようということで、規制に関わる部分、市民の方、事業者の方の制限に関わる部分とはちょっと違うのかなと思いたんで、あえて条例のほうには特段景観拠点という文言は記載しなかったんですが、ただ、先ほどおっしゃられたとおり、景観重要樹木や景観重要建造物、そういったものを今後さら

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

に指定を増やしていこうということは、やっぱり我孫子市の景観づくりにおいても重要なことだと思いますので、そのあたりは景観の場合ですと、今、市民団体さんと連携しながらずっと進めてきたものでもありますので、そういった市民の皆さんのお声なんかも聞きながら、あるいはこれまで市民の皆さんと一緒に選んできた我孫子のいろいろな八景、その位置づけなども踏まえながら、今後景観重要樹木や景観重要建造物の指定を増やしていくということも考えていけたらいいかなというふうには思います。

○委員（海津にいな君） 私も思い出しますと、景観条例をつくる時の職員さんがいろいろな看板の色合いですとか、細かく我々に、国の法律、それから県の我孫子への思いというのを伝わりながら聞いていましたので、さらに力強い条例になっていくのかなって、そういう期待の思いで見えてはおりますけれど、確かに、これまでの議員として関わってきたことを思い返しますと、やっぱりその条文に関しても、職員さんの思いと、それからいろいろな思いが入っているので、すっきりしちゃっていいのかなと言われてみると、今気がついたところなので、それも大事かなとも思います。

本題に入りますけれど、この条例の中でかなりこの景観づくり、市民団体として認定するというのはいろんな条例を見ていますと、こういう形で市民団体が出てくるってあんまりなかったかなと思うんですけど、何かはっきりした団体があったり、それが複数なのか1団体を目指しているのか、その辺がイメージとして伝わってくるころはあったんですけど、この第20条のところ55ページにありますけれど、具体的なこの景観づくり市民団体というのを、この条例の中で明らかに文書化している意味というのはどういうことなのか、ちょっとお聞きしておきたいと思います。

○景観推進室長（沼崎智君） この景観づくり市民団体の規定は、平成18年に改正いたしました現行の条例の中にも盛り込まれている規定になっておりまして、やはり景観づくりは行政だけでできるものではなく、市民の皆さん、事業者の皆さんと協力しながら進めていくものだということで、こういった位置づけを条例のほうに規定したという経緯がございます。

実際今この景観づくり市民団体には、我孫子の景観を育てる会さんが、平成13年にこの団体の認定を受けておりまして、現在も私たちと一緒に連携しながら景観づくりのほうを進めていただいているという状況にあります。

○委員（海津にいな君） ありがとうございます。

1つではなく、やっぱりその景観を育てていくということで、意識としては1つの団体に何かこの重点的に期待をするというのではなく、今後もっと広げていく、それからイメージとしては、こういう団体もあるな、ああいう団体もあるなという、ちょっと目星をつけているところがあるのかどうか。その辺のところ、心積もりがおありなのだと思うので聞いておきたいんですが、いかがでしょうか。

○景観推進室長（沼崎智君） 我孫子の景観を育てる会さん以外ですと、景観づくり市民団体の認

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

定は受けていませんけど、同じように景観づくりに取り組まれている団体さんというものはいらっしやいます。

実は、こういった市民の皆さんの景観づくりの取組というものについては、我々景観推進室としても、もっと広めていきたい、盛り上げていきたいという思いはございまして、そういう普及啓発の取組という部分も、かなり重視してこれまでやってきたところではあるんですが、まだ団体として、グループとしてその景観づくりに取り組んでいるという方たちが、ちょっとほかに我々のほうも認識していない部分がございますので、今後そういう団体さんが誕生するとか、あるいは私たち実はこんなことやっているんですよということで情報を我々もキャッチした暁には、その団体さんの活動を我々も見させていただきながら、こういう認定ありますけどいかがでしょうかということで、ちょっと進めていきたいなというふうには思っています。

○委員（海津にいな君） ありがとうございます。

それから続いて、23条で表彰という言葉が目につくんですけど、これも表彰せずとも、こうした景観形成、それから活動自体というのはなされていくものだと思うんですが、この表彰ということ今回目途としているということは、もっとこれからの新たに全面改正するという中で、大きな意味合いになるということでここにしつらえてきていらっしやるんでしょうか。個人と団体とあるということになりますけれど、このあたりもうちょっと詳細にお考えのほうを示していただきたいと思います。

○景観推進室長（沼崎智君） この表彰に関する規定も現行の条例の中に規定されているものになります。かつては景観賞というものを市内で非常に景観形成上、例えば優れた建物を管理されている方とか、そういった方に賞を送っていたということがございまして、ただその景観賞もある程度回数を重ねていくごとに候補者が少なくなってきたということもあって、一旦そこで打ち切られたという経緯はあるんですね。

具体的に、今、この表彰に関して、こういう施策を考えているというものはないんですが、やはり普及啓発をこれから進めていく上で、やっぱりいいものをどんどん知っていただいて、そのいいものをある意味モデルとして、皆さんちょっと工夫いただけませんかというような広げ方をしていくということも、私はあるのかなというふうには思うんですね。

そういった施策展開を今後図っていく上で、やはりこの今現行の条例にもあるこの表彰の規定というものを残しておいたほうが、先々活用できるのかなというふうにも思いまして、この規定の中にまだ残すような判断をいたしました。

○委員（海津にいな君） ありがとうございます。

やはり表彰していく、今言われるように限界があるんじゃないかなと思いましたが、ここにこういう形で残しておくという意図というのが分かりました。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

これから、どっちかという2つの条例が1つに統合されるような形になっていくときに、片や一方では、どういうふうに太陽光のパネルなどの取締りをするかというようなことも市民の中で出てくると思いますので、片や一方で、きちっとした取締り、そうしたこともしなければならぬと思いますので、表彰という意図というのが何かしら市民の景観形成の中で生きていけるように残しておきたいという意図が私にも理解できましたので、しっかりとした条例化に向けてさらにやっつけられるのかなという職員の皆様の意図を感じることができたので、この条例に対して理解を進めることができました。

それでも、もう一点だけ伺いたいんですけど、条例を制定するときにおいて、効力をいつ発効させるのかなという、そうした対応というのも考えなければならぬと思うんですけど、これを来年の令和8年1月から施行するという、かなり余裕を持った形でされているので、またいろいろな声を聞いていこうかなということがおありなのかと思いましたが、この施行日を余裕を持つ期間にされたというのは、まずちょっと直していくところですか、いろいろ聞き取ることが必要かなというふうなお考えがあるんでしょうか。その辺ちょっと心積もりをお聞かせください。

○景観推進室長（沼崎智君） 今回、景観条例を改正して届出の対象行為も大きく見直しを行いました。その届出の対象行為も、幾つかエリアとゾーンがあるわけなんですけれども、そのエリア、ゾーンによっては、これまでよりも届出が必要な行為が狭まるエリア、ゾーンもあれば、むしろ対象行為が広がるエリア、ゾーンもありまして、その届出の対象が広がるということ規制の強化というふうに読み替えると、やはり緩和されるだけの話ではありませんので、やっぱり事業者の皆さんですか市民の皆さんに知っていただくための周知期間を設ける必要があるだろうというふうな考えました。

また、条例とは別に、景観計画のほうで定めている行為制限の基準についてもかなり見直しが行われていますので、こういうふうに変わりますということ条例と計画セットで周知するというところを考えたときには、ある程度の期間を設けたほうが混乱なくスムーズに新制度のほうに移行できるのかなと思っていて、1月1日までの間、仮に今議会で御可決いただいた暁には半年ぐらい期間が設けられるわけなんですけれども、その間は周知期間ということで市民の皆さん、事業者の皆さんに広くお知らせのほうをしていきたいと思っています。

○委員（海津いな君） ありがとうございます。

よりやっぱり、我孫子においては景観への姿勢という県からも一目置かれている、そういうところがあるのではないかなと思いますので、職員の皆さんの意識もかなりそれに向けていらっしゃるのかなというのを感じられましたので、さらに、またこの条例をよくしていただくように、市民の理解が得られるようお願いしたいと思います。ありがとうございます。要望です。

○委員長（山下佳代君） ほかにありませんか。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） ないものと認めます。

議案第8号及び議案第9号に対する質疑を打ち切ります。

議案第11号、工事請負契約の変更（金谷排水機場更新工事）について、当局の説明を求めます。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 議案第11号、工事請負契約の変更について御説明いたします。

議案書66ページ、議案資料は7ページから11ページになります。

議案書の66ページを御覧ください。

工事請負契約の変更については、金谷排水機場更新工事の請負契約の一部を次のとおり変更するものです。

契約金額、10億100万円に4,235万円を増額し、10億4,335万円にします。

提案理由は、金谷排水機場更新工事について、排水機場内のポンプを分解点検したところ、主軸の偏心が大きく部品の交換が必要となり、ポンプの整備を行う間、同等の排水量を確保するため一時的に仮設ポンプを設置する必要性が生じたことから、契約金額を増額するため、工事請負契約の一部を変更するため提案するものです。

なお、仮契約につきましては、令和7年5月2日付で締結しております。

工事概要について説明いたします。

議案資料の7ページを御覧ください。

工事の名称は、金谷排水機場更新工事です。

履行場所は、我孫子市久寺家地先です。

工期は、令和5年9月23日から令和8年3月10日までです。

契約の相手方は、株式会社石垣千葉営業所です。

変更となる主な工事内容は、口径800ミリメートル立軸射流ポンプ主軸の交換と、口径400ミリメートル仮設ポンプ5基の追加になります。

工事の変更理由は、全3基のポンプを工場に運搬し分解点検したところ、一部のポンプについて主軸の偏心が大きいたことが判明し、ポンプの故障などの不測の事態を避けるため、部品を製作し、交換・整備することとしました。

ポンプの整備は5月までに行い、出水期である6月までには稼働を開始する予定でしたが、全3基のうち1基は部品の製作及び交換のため、ポンプの稼働が7月となる見込みです。その間、同等の排水量を確保するため、仮設ポンプを設置します。

なお、工事はおおむね順調に進捗しており、予定どおり契約工期である令和8年3月に完了する見込みです。

続きまして、施設の概要です。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

8 ページを御覧ください。

金谷排水機場は、つくし野川の最下流部に位置しており、平常時は久寺家幹線、新宿幹線、関東幹線、天王台幹線の流域の雨水を利根川へ自然排水していますが、利根川の洪水が田中調節池に流入し、つくし野川への逆流が始まった際に、強制的に排水する施設です。

9 ページを御覧ください。

金谷排水機場には口径300ミリメートルの電動ポンプ1基、口径800ミリメートルのエンジンポンプ2基があります。このうちエンジンポンプ2基の主軸について偏心が大きいことが判明したことから、交換することとしました。

次に、仮設ポンプについてです。

10 ページを御覧ください。

エンジンポンプ1基が出水期までに稼働できないことから、同等の排水量として口径400ミリメートルの仮設ポンプ5基を建物の外部に設置します。

最後に工程です。

11 ページを御覧ください。

当初契約工期のとおり、令和8年3月10日で完了する見込みです。

ポンプの稼働ができるまで、仮設ポンプを含めて既存と同等の排水量を確保し、安心・安全なまちづくりを推進していきます。

以上で説明を終わります。十分な御審議の上、御可決いただきますようお願いいたします。

○委員長（山下佳代君） 以上で説明は終わりました。

これより質疑を許します。

○委員（坂巻宗男君） ありがとうございます。丁寧に御説明いただいておりますので、勉強会もやっておりますし、概略は分かっていますが、何点か確認させていただきます。

資料の11ページが見やすいかなと思うので、それを基に行くんですが、今回、基本的に4,000万円からの補正になっていて、大きいのはいわゆる仮設ポンプ設置分ですよね。それが3,000万円程度ということですから、ここがほとんど。この工程表で言うところの3,000万円の仮設ポンプというのは、いわゆる一番下のNo.3仮設ポンプの部分のラインだというふうに認識してよろしいでしょうか。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 今回の変更の内容といたしましては、主軸の交換と仮設ポンプになりまして、委員おっしゃったとおり、仮設ポンプの期間というのが、工程のとおり6月、7月ということになっております。

○委員（坂巻宗男君） この6月、7月の期間、仮設ポンプ5台を設置して大雨に備えるというふうなことで、今までの説明だと今、順調にきていますという話なんですが、これたしかつくし野川

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

などを一度、ある意味ではせき止めてと言っていいのかな。それで、水をためた上で、この仮設ポンプの稼働状況も確認したというふうなことだというふうに認識しているんですが、その辺はどういうふうなスケジュールで行って、実際この仮設ポンプをしっかりと稼働したのか、その辺をお聞かせください。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 現在のところ3基のうちの2基のポンプが機場に戻っておりまして、試運転は5月25日から29日の間で確認しております。その後、仮設ポンプの設置をいたしまして、6月8日から11日の間で職員のほうで稼働することを確認しました。これを終えまして全排水量が確保することを現在のところ確認しております。

最終1基の大きなポンプが戻りましたら、そちらのほうも試運転をかけた後に、現在の仮設ポンプは撤去するという形になります。

○委員（坂巻宗男君） 了解しました。

順調に仮設ポンプも稼働して、いわゆるポンプとしての水を吸い上げる水量なども動いている、しっかりと確保できるということを確認しているということなので安心をいたしました。

それで、8月に主軸がぶれてしまっていたポンプが設置をされるというスケジュールになっているわけで、それまで仮設ポンプを稼働するという話であるわけですが、繰り返しますが、8月にそこは納品をされるというふうに見ていてよろしいのでしょうか。あるいは仮にですけれども、それが少し何かの関係で遅れるよというようなことになると、当然、仮設ポンプをまた少し長めに設置をするということになると思うんですが、その場合などは費用負担等々出てくるのか、その辺は併せてお答えいただけますでしょうか。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 最後の大きいポンプ1基なんですけれども、物自体は整備が終わって既に機場に戻っておるんですが、配管等、あと電気設備の接続、そういったもので試運転自体が6月末ぐらいを予定しております。

今のスケジュールですと7月中には全て稼働が確認できる予定ではありますが、まだ全体の工事が終わっておりませんので、全体の試運転となりますと10月、11月頃ということで、電気系統、燃料系統も含めて全体的な試運転というのが最後に準備されているという状態になっております。

○委員（坂巻宗男君） 今は既に主軸が壊れていたポンプは戻ってきていて、これから設置していく、あるいは電気設備などにつないでいくということかなと思うんですが、そのポンプが稼働するのは8月からと思っていいたいんですか。それとも今の最後の後段の説明のように、少し年度の後半というか、もう少しある意味では渇水期に入ってしまうのかな、そのぐらいの時期になってしまうのか、その辺はいかがなんでしょうか。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 最終のポンプは試運転が今月末に控えていますので、その試運転で異常がないことが確認されると、7月からは使えるものと考えております。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○委員（坂巻宗男君） 了解しました。

そうすると、恐らくは仮設ポンプもこの契約の期間内でしっかりと収まって、4,000万の増額で済む形で、この工事が終わるのかなというふうに思います。

何しろ、今日あたりも物すごい暑さで、ちょっと梅雨だというのにこの後の予報を見ても、雨マークがほとんどないような状況ではあるんですけども、それこそゲリラ豪雨みたいなものがあるか分かりませんし、それこそ本当にまた、6月議会終わって以降台風シーズンなどにも入ってくると思いますので、ぜひ治水のほうのこういった設備、非常に市民の皆さんの生活に欠かせないものになっていますので、故障などないように今後もしっかりと対応していただきたいと思います。答弁結構です。

○委員（船橋優君） このポンプは、一応有事のときに動くようなポンプだと思うんですけど、今までに何回ぐらいこれ動いたことあるんですかね。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 金谷排水機場ができてから、記録になるんですけども、約8回稼働したという記録がございます。

○委員（船橋優君） ありがとうございます。

これの現地にはボイラーマンというか、そういう人がいるのか、あるいは定期点検的なことはどれくらいの周期で行われているんですかね。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 金谷排水機場は、とても重要な排水機場でございますので、稼働の確認というのが我々の業務の一環になります。ですので、毎年出水期、水が出る期間は毎月稼働して点検をしております。

○委員（船橋優君） ありがとうございます。

この軸が今回駄目になっていると。恐らくポンプでこの軸が一番大事なところですから、この軸が駄目になったその原因というか、誰かいれば動かしたときに、大きなポンプなんで相当な音がするんじゃないかと思うんですけど、その辺の事前の発見とかいうのはできなかったんでしょうかね。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 先ほどの答弁の中の点検というものは、我々も機場で動かして点検をしますし、委託した会社によって動かしていただいて点検もしております。

もともと機場内がエンジン、発電機、いろんな音で軸の音というものを気づければよかったんですけども、今回更新工事に当たって長寿命化計画というのを策定しましたが、その中では先ほどのお通り、利用頻度が8回ぐらいしか実稼働していない。状態も非常にいいということで、内部の分解までして整備計画は立てなかったんですけども、外観からも損傷はないですし、中の軸は消耗品ではないことから、再利用ができると思って計画のほうは立てさせていただきました。

消耗品部材は当然、交換するというのと、電気系統は耐用年数短いですので交換することになっておりましたが、今回の中の軸というものは対象としておりませんでした。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

どうしてというのを我々もいろんな知見のある方々に聞いたんですけれども、経年劣化でしょうという以外、今回の軸の偏心というものについて原因というものは分かりませんでした。

○委員（船橋優君） その場合、見積りを取ったときに、業者のほうからこれだけの大きな金額なので、当然私はその別途で、こういうときにはこれぐらいの別途の金額かかりますよというお知らせというか説明が、いろんな工事であると思うんですけど、その辺の説明的なものは何かあったんですかね。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 今回この規模のポンプを更新するというのは我々初めてでして、行いうに当たって国の施設であったり、いろんな前例のある方々に聞きながら、どうやって発注したらいいかというのも含めて伺いましたけれども、なかなか専門的な部分でして、どこが悪くなっているというのは分解してみないと分かんないところがありましたので、分解する前にどれがどうだったらというところまで、ちょっと詰め込めてはいませんでした。

○委員（船橋優君） 我孫子市も財政が厳しいという中で、私もいろいろ思っていますけど、今回の工事でも、普通だったらやっぱり予算がないと工事できないわけですよ、普通の人はね。金を用意しとかなきゃ工事が終わらないような感じなんですけど、やはりその辺が私はちょっと残念だったなと思って。もちろん市のほうも予測はしていなかったんでしょうけど、以後こういうことをやはり勉強して、もうちょっと先のことまで考えて業務のほうに当たってもらいたいと思います。回答は結構です。

○委員長（山下佳代君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） ないものと認めます。

議案第11号に対する質疑を打ち切ります。

議案第16号、市道路線の認定について、当局の説明を求めます。

○道路課主幹（中村貴政君） 議案の説明に入ります前に、委員の皆様におかれましては、6月12日木曜日、議案第16号の市道路線の認定について及び議案第17号の市道路線の変更についての現地確認を行っていただきまして、大変ありがとうございました。

それでは、議案第16号、市道路線の認定について説明させていただきます。

議案書73ページを御覧ください。

議案資料では15ページから御覧ください。

市道路線の認定については、道路法第8条第2項の規定により、議会の議決を経て市道路線を次のとおり認定するものです。

提案理由です。

開発行為により市に帰属した道路について、交通の利便性の向上及び安全性の確保を図るために、

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

新たに市道路線を認定するため提案するものです。

路線数は1路線です。

整理番号1、45-051号線、起点は中里484番2、終点は中里184番10です。

以上で説明は終わります。十分な御審議の上、御可決いただきますようお願いします。

○委員長（山下佳代君） 以上で説明は終わりました。

これより質疑を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） ないものと認めます。

議案第16号に対する質疑を打ち切ります。

議案第17号、市道路線の変更について、当局の説明を求めます。

○道路課主幹（中村貴政君） 議案第17号、市道路線の変更について説明させていただきます。

議案書75ページを御覧ください。

議案資料は19ページから御覧ください。

市道路線の変更については、道路法第10条第3項の規定により、議会の議決を経て市道路線を次のとおり変更するものです。

提案理由です。

柏市と重複して市道に認定している道路について、柏市において当該道路の拡幅整備及び管理を行うこととすること並びに開発行為により市に帰属した道路について、交通の利便性の向上及び安全性の確保を図ることから、市道路線を変更するため提案するものです。

路線数は2路線です。

初めに、整理番号1、03-015号線、起点が布施2700番5で、終点が布施2690番1から布施2692番に変更となり、道路延長が59メートルの減となります。

当該路線の一部について、柏市の市道認定と重複していることから、柏市と協議を行った結果、柏市が拡幅整備及び今後の管理を行うこととなったため、我孫子市の市道路線を変更することにより重複認定を解消することになります。

次に、整理番号2、32-056号線、起点が下ケ戸517番9で、終点が下ケ戸517番14から下ケ戸517番33に変更となり、道路延長が26.8メートルの増となります。

以上で説明は終わります。十分な御審議の上、御可決いただけますようお願いいたします。

○委員長（山下佳代君） 以上で説明は終わりました。

これより質疑を許します。

○委員（坂巻宗男君） 御説明ありがとうございました。

布施の変更の関係ですけれども、現地でもお話をみんなで伺いましたけれども、今回のこの柏市

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

との協議の中で、我孫子市側と柏市の改めて市の認定道路の位置を定めることで、柏市側のほうは柏市で道路拡幅の工事を今年度行って、我孫子市はそこから我孫子市側の部分を、恐らく来年度に拡幅等を行っていくというふうな話を聞きました。やはり現地調査しても、土谷津地区の道路はかなり広がって、生活環境がよくなったなどという実感はありますが、またこの部分が広がると、さらに周回できるというようなことも含めて、地域の方にとっては大変喜ばれる部分もあるんだろうと思いますので、今回の認定変更というのはそこに関わってくると思いますので、ぜひその辺の整備工事ですね、我孫子市側の分。柏市のほうが今年やってくるということですから、ぜひそこを遅滞なく遅延なく我孫子市側としても行っていただきたいと思いますが、この点について御答弁をお願いします。

○道路課主幹（中村貴政君） 地域の方の要望もあって進めている事業になりますので、この事業については柏市との調整とか、そういったことも必要になります。そういったことにしっかりと調整を図りながら、うちの工事遅れのないように進めてまいりたいと思います。

○委員長（山下佳代君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） ないものと認めます。

議案第17号に対する質疑を打ち切ります。

議案第19号、令和7年度我孫子市下水道事業会計補正予算（第1号）について、当局の説明を求めます。

○下水道課長補佐（藤縄哲志君） 議案第19号、令和7年度我孫子市下水道事業会計補正予算（第1号）について御説明いたします。

補正予算書1ページを御覧ください。

初めに、第2条、資本的収入及び支出予算の補正です。

資本的収入については既定の予定額に754万8,000円を増額し、資本的支出については既定の予定額に1,191万4,000円を増額するものです。これは令和7年1月に埼玉県八潮市で発生した下水道管路の破損に起因すると考えられる大規模な道路陥没事故を受けて、国の令和6年度予備費の活用により大規模下水道管路特別重点調査等補助金が追加されたことに伴い、資本的支出において対象となる雨水管路施設の調査を実施するため事業費を増額するものです。

なお、当初は下水道ストックマネジメント実施方針に基づき、第2期分の雨水管路施設の点検調査を実施し基本計画を策定する予定でしたが、特別重点調査を優先的に実施することとしたことから、下水道ストックマネジメント事業、雨水分の委託料について不用額を減額します。

一方、資本的収入では、支出の補正に伴い事業の財源となる企業債及び国庫補助金を増額し、他会計補助金を減額するものです。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

なお、当該補正において事業費を増額する事業の詳細につきましては、15ページ以降の主要下水道事業を御参照ください。

以降の第3条から第4条は、今般の補正に伴い条文を整合させたものです。具体的な科目別の内訳については、3ページからの補正予算に関する説明書及び11ページからの補正予算に関する説明資料に記載のとおりとなります。

以上で説明は終わります。十分な御審議の上、御可決いただきますようお願い申し上げます。

○委員長（山下佳代君） 以上で説明は終わりました。

これより質疑を許します。

○委員（坂巻宗男君） ありがとうございます。

これもいわゆる勉強会などで概略の説明は受けてきていたところでありますけれども、いわゆる今回の大規模下水道管路の調査について2,000万円からの予算になっているんですけれども、これ対象の路線といえいいのかな、管路については7か所ということによろしいですか。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 対象の管路ですけれども、関東幹線、久寺家幹線、根戸第1号幹線、宿幹線、新宿幹線、青山台1号幹線、青山台2号幹線、天王台幹線、布佐北1号幹線となりますので、全部で9幹線になります。

○委員（坂巻宗男君） 失礼しました。9幹線。

それぞれちょっと延長などが違っていると思うんですけれども、それぞれ幹線は1つの長さがいろいろあるけれども、1つの調査対象というようなことなのか、あるいは事業などを委託していくときにブロックごと、あるいはこれ9路線一括、その辺はどういうふうな形の調査になるんでしょうか。

○治水課主幹（佐藤雄司君） まず幹線ごとの調査対象は、人孔から人孔のような区切りのスパンでやってくださいということになっております。現在の9幹線の合わせたものを全て一括で発注する予定です。

○委員（坂巻宗男君） 人孔、いわゆるマンホールですよね。マンホールからマンホールまでの区間で調査をしていって、9路線一括で行うと。

実はこれ勉強会のときにも御質問したところなんでしょうけれども、これ全国で、今我孫子市議会でも、今回の本会議などでもいろいろな方が御質問されていて、あるいはその前からそういった質問は、我々もこの委員会などでしてきている。全国でこういった一斉調査が始まってということを考えると、果たして2月までにこの調査をしっかりと委託して完了できるのかという、その受け手側がいるのかという、これ緊急的にやんなくちゃいけないことなので、先延ばしもなかなか難しいと思うんですけども、その辺の当てというのかなはいかがなんでしょうかね。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 委員おっしゃるとおり、我々もその点がすごい懸念されるところで

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

はあるんですけども、国から補正予算の今回の補助金をいただいたときから、速やかに現在の補正予算まで行っておりまして、早ければ7月に入札を行えるということで、近隣市の動向も調査しましたけれども、官民でもう既に委託業務、施設を民間に委託している市町村を除けば、結構早いほうに位置づいていますので、なるべく早く発注することがそういった懸念を払拭できるものとして、速やかに事務のほうを行っております。

○委員（坂巻宗男君） ありがとうございます。

その点、非常に気になっている部分でありますし、今、市民の皆さんの関心も非常に高いところで、我孫子市のある意味で下水も水道も含めて、道路などに陥没、穴開かないかなみたいのを気にされている方々も多いので、こういったところで調査をしっかりといきながら安心・安全を高めていただきたいというふうに思いますので、ぜひこの6月、これ可決された以降、速やかな委託作業を行って、もし仮に異常などがあればその対応策は建設部内などでしっかりと協議をして進めていただきたいというふうに思います。答弁は結構です。

○委員長（山下佳代君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） 暫時休憩いたします。

午前11時23分休憩

午前11時23分開議

○委員長（山下佳代君） 再開いたします。

ここで内田美恵子議員から我孫子市議会会議規則第117条第2項の規定により、議案第19号について委員外議員の発言の申出がありました。

お諮りいたします。これを許可することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） 御異議ないものと認めます。

よって、申出のとおりこれを許可することに決定いたしました。

内田美恵子議員に申し上げます。申合せにより、発言時間は答弁を除き5分以内となっております。なお、発言は一問一答で簡潔にお願いいたします。

これより委員外議員の発言を許可いたします。

○委員外議員（内田美恵子君） 貴重なお時間をいただきありがとうございます。委員外質問をさせていただきます。

予算説明資料16ページ上段、大規模下水道管路特別重点調査等事業2,000万円についてです。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

今回の特別重点調査の実施については、国費率が50%、起債充当率が100%で、起債の交付税措置率は50%、また調査予算2,000万円の財源内訳としては、国補助金が976万4,000円、企業債が1,010万円、他会計補助金で13万6,000円となっております。

まず、企業債についてお尋ねします。

起債充当率は100%となっておりますが、今回、国と市からの補助金以外の下水道の負担分全てを企業債、言い換えれば借金をして賄おうとした理由をお聞かせください。

○下水道課長補佐（藤縄哲志君） 今回、国費をおおむね50%充てさせていただいて本事業を実施するというございますが、その裏側の負担について企業債を発行して対応していくということについては、こちらは、やはり企業債の発行をせずにとということになりますと、どうしても一般会計からの繰入金を受け入れた形で、この事業を進めていくということになります。

ただ、一般会計のほうにも財政事情ございますし、今、市の中で必要な事業多数ある中で、何とかして、そうは言っても今回のこの事業、非常に重要な事業でございますので、これを進めていくためにはとこのところで、起債によって今回の事業費を賄う形で進めさせていただくこととしたものです。

○委員外議員（内田美恵子君） このために現在の企業債の残高と交付税措置のない実質的な企業債残高をお聞かせください。

○下水道課長補佐（藤縄哲志君） 令和6年度末の企業債残高としておよそ108億8,000万円程度の残高となっております。交付税措置の有無別の残高については、現在資料持ち合わせてございません。申し訳ございません。

○委員外議員（内田美恵子君） 後ほど提出してください。

それから次に、実質的な負担額とその財源についてお尋ねします。

起債の交付税措置率は50%ですから、残りの50%は交付税措置がありません。交付税措置のない企業債の元利償還額が実質的な負担額になると思いますが、実質的な負担額をお聞かせください。またその財源をどのように担保するのか、お聞かせください。

○下水道課長補佐（藤縄哲志君） まず企業債のほう借入れがおよそ2,100万円を見込んでおります。こちらの元利償還金の50%について特別交付税措置があるというふうに聞いております。仮にこちらが出るとすれば、その半額程度が特別交付税措置されますが、その残りの部分については市のほうで負担する形で償還をしていく必要がございます。こちら元利償還金ということですので、元金のほか利息のほうも発生してくることかとは思いますが、ちょっと本当に概々算ということにはなりますが、償還期間全体で恐らく七、八百万円程度の利息が発生するものと見込まれますが、そのうちの50%が特別交付税措置されるとしますと、おおむね550万円程度の元利償還金というのが市のほうで負担するべき額というところになってくるかと思えます。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

今回の事業については雨水事業ということでございますので、雨水の部分の一般財源相当に値するところの財源というのは基本的には公費負担、すなわち一般会計からの繰入金ということで受け入れる形で賄っていくことになるものと考えられます。当然その将来の部分ではございますので、不確定ですし、一般会計のほうの財源の状況にもよるかと思っておりますので、これは財政部局とも協議調整をしながら進めていく部分になるかと思っておりますが、現時点での想定としてはそのような形で想定しております。

○委員外議員（内田美恵子君） 次に、財源の中の他会計補助金13万6,000円、これ一般会計からの補助金だと思いますが、その積算根拠をお聞かせください。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 今回、委託料に必要な経費2,000万円から、国から示された国庫補助金976万4,000円を除いた額から、企業債として借入れ可能な額の1,010万円を除いた額が、他会計補助金として一般会計から繰り入れる額になります。

○委員外議員（内田美恵子君） 積算根拠をお尋ねしているんですけど。

○治水課主幹（佐藤雄司君） まず、2,000万円の委託料の積算根拠ですけれども、国のほうから各市町村の管路延長に応じて、我孫子市のほうは976万4,000円ということで国の補助金の内示が出ました。この補助金を最大限活用すべく、2,000万円の市の委託料として予算を計上しております。

突発的に生じたことですから、我々のほうで積み上げて積算したものではなくて、今回予算として計上させていただいておりますけれども、この中から本当に必要なものを積算して発注までに精査して、委託料というものは精査していくつもりです。

○委員外議員（内田美恵子君） 一般会計から下水道事業に出す理由を、じゃ、お聞かせください。

○委員長（山下佳代君） 暫時休憩いたします。

午前11時32分休憩

午前11時33分開議

○委員長（山下佳代君） 再開いたします。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 今回の下水道管路特別重点調査に必要な2,000万円から、国庫補助金として頂ける額と企業債の額を除いた額が一般会計からの繰入金の額になります。

○委員外議員（内田美恵子君） 分かりました。

それで空洞調査の財源についてお尋ねしたいんですが、調査の結果、空洞調査が必要になった場合の財源が今課題となっておりますが、空洞調査は国費が充当されないのか、また国費が充当されない場合の財源をどのように捻出しようとお考えなのか、お聞かせください。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 今回、調査の手順といたしましては、まず2メートルの管路ですの

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

で、人が管路内に入って目視による点検を行ってください。そこで危険度が1及び2と判定された場合には、委員のおっしゃった空洞調査をしてくださいということになっております。

ですので、我々としては、まずこの目視の調査を先行して行いまして、必要であれば空洞化調査を行ってきます。この2つにつきましては、今回の国の予備費に対象となっておりますので、この財源の中から行えることになっております。

○委員外議員（内田美恵子君） 県のほうから見ていただけるというお話、ちょろっと聞いたんですけれども、その辺いかがでしょうか。

○委員長（山下佳代君） 暫時休憩いたします。

午前11時35分休憩

午前11時36分開議

○委員長（山下佳代君） 再開いたします。

○治水課主幹（佐藤雄司君） まず市に割当てられた国からの補助金が976万4,000円です。委員おっしゃったとおり、今後調査することによって様々な調査が必要になってくることと思います。万が一、市の今の割当て分で足りない場合には、千葉県内で過不足あった市町村と調整してくださいというふうに国から言われていますので、市のほうで足りなくなると判断した際には、千葉県を通して調整を図りたいと思います。

○委員外議員（内田美恵子君） 県の財源にも限りがあると思いますので、早く調査に取りかかっていたら、空洞調査が必要になった場合には県に早急に財源を要望していただきたいと思いますが、その辺いかがでしょうか。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 今回の調査は、皆様の暮らしの安全・安心に直結することですから、我々としてもいち早く調査をして異常がないこと、異常があればすぐに何か手だてをすること、そういうことが大切だと思っています。

この今回の議会で予算成立後、速やかに事務を進めて、少しでも早く国からの指示である今回の重点調査を行っていきたいと考えています。

○委員外議員（内田美恵子君） 今回の重点調査の結果、修繕や改築が必要になった場合は、国費が充当される見込みはあるのか、また国費率はどのぐらい予想されるのか、お聞かせください。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 我々のほうでも、県を通じて国からの動向を注視しているところではありますが、今回のまず国の予備費による重点調査の進捗がまだ全国的にも進んでいないこともありまして、まずは令和8年2月までの報告を速やかに行ってくださいという指示になっております。

来年度の話ですね、国からもまだ情報を得ていませんので、そこら辺の情報は注視しながら、来

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

年度の予算要求に向けて行っていきたいと思います。

○委員外議員（内田美恵子君） 説明資料の16ページの下段の下水道ストックマネジメント事業（雨水分）808万6,000円の減額補正についてお尋ねします。

これ当初予算で、下水道ストックマネジメント基本計画策定業務委託料として1,245万2,000円予算措置していましたが、そのうちの一部を汚水分の下水道ストックマネジメント事業に流用するということになりましたが、その理由をお尋ねします。

○下水道課長（西澤卓君） 当初このストックマネジメント計画については、汚水と雨水を合算した形で一本の契約で発注しようとしておりました。今回の雨水のほう为重点特別調査のほうに移行するというので、汚水単独で発注することとなりました。この積算の過程において、汚水と雨水で案分して計上する歩掛かりがあるんですが、雨水がなくなることで汚水が単独で計上しなきゃいけない部分、あと経費についても雨水分の経費が全くなりますので、その分を汚水で見ることになると。そういったところで、汚水単独で発注しようとした場合に予算の不足が生じたということでございます。

○委員外議員（内田美恵子君） 分かりました。

最後にしますけれども、今回の重点調査は管路の老朽化対策の入り口だと思います。調査の結果、管路の改修や改築が必要となった場合の財源が、今後の下水道事業の大きな負担となると予想されます。国からの交付金や補助金があったとしても、事業費の100%は賄えるものではありません。今後、管路の老朽化対策が本格的になればなるほど、下水道事業は財政的に厳しいものになると思います。老朽化対策の財源をどのようにこれから担保しようとお考えになっているのか、その辺をお聞かせください。

○下水道課長補佐（藤縄哲志君） 管渠の老朽化対策ということにつきましては、今回の事件等含めても、非常に大きい課題だということで認識しております。

そうしますと、もうまさにその管渠の老朽化というのは整備してから50年を経過している中で、これからどんどん事業費が増えていくというところがございますから、今、議員からお話のありましたとおり、その財源として確保していくべき部分というのは非常に多くなってくるということは課題として認識しております。

そういうところも含めまして、今後改築をどんどん進めていくというためには、やはり起債を活用するですとか、そういったようなところはありながらも、やはり自前で賄っていけるような財源というのをしっかり確保していく必要があるということは認識しておりまして、雨水事業、汚水事業ということでそれぞれございますが、例えば汚水事業につきましては、汚水私費の原則というふうにも言えますけれども、下水道使用料を使用者の皆様から頂戴して管渠のほう、今後修繕していくというところがございますので、今後のそういう老朽化対策ですとか修繕、改築、そういったよう

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

なものを踏まえながら計画を進めていく中で、経営戦略等にも反映し、使用料の適正な水準ですとか、そういったことについても検討しながら、財源確保、努めてまいりたいと思います。

○委員外議員（内田美恵子君） 本当に大変なことだと思うんですけども、これまで以上に財源を意識しながら計画的・効率的に老朽化対策あるいは耐震化を進めていただきたいと思います。

これ強く要望をしまして、委員外質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○委員長（山下佳代君） 以上で、委員外議員の発言を打ち切ります。

暫時休憩いたします。

午前11時44分休憩

午前11時44分開議

○委員長（山下佳代君） 再開いたします。

議案第19号に対する質疑を打ち切ります。

暫時休憩いたします。

午前11時44分休憩

午前11時45分開議

○委員長（山下佳代君） 再開いたします。

議案に対する討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） ないものと認めます。

これより、議案を一括して採決いたします。

議案第8号、我孫子市景観条例の全部を改正する条例の制定について、議案第9号、我孫子市太陽光発電設備の適正な設置を図るための手続に関する条例を廃止する条例の制定について、議案第11号、工事請負契約の変更（金谷排水機場更新工事）について、議案第16号、市道路線の認定について、議案第17号、市道路線の変更について、議案第19号、令和7年度我孫子市下水道事業会計補正予算（第1号）について、以上議案6件について、原案に賛成の委員は起立願います。

（ 賛 成 者 起 立 ）

○委員長（山下佳代君） 起立全員と認めます。

よって、各議案は可決すべきものと決定いたしました。

暫時休憩いたします。

午前11時46分休憩

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

午前11時49分開議

○委員長（山下佳代君） 再開いたします。

これより所管事項に対する質問に入ります。

初めに、都市部に対する質問をお願いいたします。

○委員（坂巻宗男君） それでは都市計画の景観のほうについて伺います。

本会議のほうでも御質問したところなんですが、いわゆる我孫子新田の温浴施設が今回、事業者に決定をしたということを受けて、まだその事業計画などは出てきていないというふうな状況ではないかと思うんですが、まず最初に景観アドバイザーとの協議が始まるというふうなことです。

今回、我々議会のほうにも、地域の住民の方、手賀沼を生かしたまちづくりを考える会の方から、事業者のほうに向けてこういった質問を出しました、要望を出しましたということの文書なども送られてきて、やはり地区計画の変更を行って、市全体として御意見が寄せられたときで見ると、賛成だよという人が割合として多かったというところあるけれども、その周辺地域ということで見ると、やはり心配だ、不安だというふうな感覚を持つ方が多いというのは、私も実情として分かるんですよね。特に、今までないような施設ができてくるというようなことでありますから、そこでまだ詳細は分からないけれども、いろいろ不安に思われている。やっぱりそういうことに対して我孫子市としても、今回の案件は、民地だけで行われる開発事業というわけではありませんから、我孫子市の市有地というものも賃貸をして、そこで行われていく事業というふうな形になるので、ぜひ様々な点で市民の皆さんの声なんかを受け止めて進めていただきたいと思いますというふうに思っています。

そういう中で、まず景観のところから入っていくということで、ちょっと繰り返しになって、なかなかまだ事業計画がない中なので、スケジューリングなんかも見えづらいとは思いますが、本会議で大体そこには2か月ぐらいかかるのではないかなというふうな部長の御答弁ありましたけれども、これ具体的には、どういったやり取りなどがあってそれぐらいの期間がかかるかなというふうなことになるのか、分かる範囲で結構なんですが、お聞かせください。

○都市計画課主幹（沼崎智君） 今回の施設に関しては、景観アドバイザーの皆さんには、建物の外観、それと植栽などの建物の外構、それから建物に設置する屋外広告物、それらトータルで専門的なアドバイスをいただこうかなと考えております。

まず、事業者さんのほうから、商業観光課を通じて必要な図面が上がってきましたら、まず都市計画課のほうでは景観づくりの基準、景観計画で定めている基準に適合した計画になっているかということ、それと地区計画に適合した計画になっているかということ、あと屋外広告物に関しては千葉県屋外広告物条例が我孫子市、適用されておりますので、その条例の基準に適合したものになっているかどうかということをもチェックいたします。

これら全部クリアしているということが確認されましたら、今度はその図面を景観アドバイザー

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

の方にお送りした上で、景観アドバイザーの皆さんと事業者の方が直接対面で質疑応答を行う場を設ける予定であります。その中で、いろいろ事業者さんのほうから、今回の建物の設計のコンセプトですとか、景観に配慮したこととか御説明いただいて、そこで景観アドバイザーさんのほうとお話をしていただいた上で、実際景観アドバイザーそれぞれの方から今回の計画に対して、基準に適合しているということを前提として、もっとよりよい景観づくりにするための工夫などを御提案いただいて、それを景観推進室のほうで取りまとめて、書面で事業者さんのほうにお送りします。

事業者さんのほうで、書面でこちらからお送りした提案事項について、検討結果をまとめていただいて、それをまた書面で景観推進室、都市計画課のほうに御報告いただくと。その内容を都市計画課のほうで確認させていただいて、再度、また提案が必要な部分については、またもう一回その手続を繰り返しますし、もう御回答いただいた内容で十分だというふうに判断した暁には、そこで景観アドバイザー相談終了となりまして、景観アドバイザーの相談結果を踏まえた計画の修正をまたしていただくというような形になってきます。

○委員（坂巻宗男君） ありがとうございます。流れとしてよく分かりました。ありがとうございます。

確かに対面で事業者の方と景観アドバイザーとのやり取り、あるいはそれを踏まえた上での提案の受付と、それからまたそれを今度事業者側に出して、その回答などをやり取りするというふうなことなどを考えると、それなりの時間がかかるのかなというふうにも思いました。

そこはやはり丁寧にやっていただく必要があるのかなというふうに思うのと、ちょっと繰り返すことになるんですが、いわゆるこれは純粋な民間の開発というふうなことでもないわけなんですね。繰り返しですけれども、いわゆる市の市有地というものがないとできない計画になっているわけなので、そういった点で、よりある意味では地域の景観をリードしていくような、私はやはりそういった建築であり開発になってもらいたいと思うんですよね。

ですから、そういった点も含めて、ぜひ景観アドバイザーの方々からは積極的な有意義な提案をいただきたいというふうに思うんですけど、その点いかがですかね。

○都市計画課主幹（沼崎智君） おっしゃるとおり、今回の施設は、市の土地にもかかってくるものでありますし、また、都市マスで交流拠点に位置づけたあの地区の言わば顔となるような施設になるかと思しますので、その点はやっぱり、そういった今おっしゃられた点も踏まえて、景観アドバイザーの皆さんから助言、提案をいただきたいというふうに考えています。

○委員（坂巻宗男君） ぜひお願いしたいと思います。

まだもちろんちょっと事業計画が出てこないのも、分からない部分。ただ一方では、事業者としての事業提案のときの図面などもありますので、ある程度のイメージはできたりもするんだけれども、私などは個人的にはもう少しボリュームを下げられないかなというふうなことなどは思

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

ったりしますけれども、そういったことなどがいろいろと議論されるのはいいなというふうには思っております。

もう一点、景観形成などの計画などの基準に適合するかというようなことなどを最初の段階で、アドバイザーの前に都市計画課で判断していくというお話、今ありましたよね。これは今さっき我々まさに条例を制定して、新しいものが令和8年1月1日から施行するということになってきますけれども、これはいわゆる旧計画と言えいいのかな、景観形成計画とか基準、そういったものに基づくものになってしまうのか、あるいは令和8年1月1日からの計画、条例に基づくようなものになるのか。それ私は当然新しいものに適合するものであってもらいたいと思っているんですが、その辺はいかがなんでしょうか。

○都市計画課主幹（沼崎智君） 今回の計画につきましては、新しい基準に適合していただくように、新しい基準を適用してチェックしていきたいと考えております。

○委員（坂巻宗男君） ぜひ、その辺も丁寧に見ていただきたいというふうに思います。

ちょっといずれにしてもまだ計画が出てきていないという段階なので、何とも分かりませんけれども、恐らくは9月議会の前には事業者側から計画なども示されてくるのかなど。そのときまでに、9月議会までにそのアドバイザーとの協議が終わっているかどうかは分かりませんが、そういったことなのかなど思ったりもしますが。いずれにしても、今後、これから市民の皆さんの不安なども踏まえて、一つ一つそういったものが解消されていくように、市としても丁寧な対応をお願いしたいというふうに思います。最後、御答弁お願いします。

○都市計画課主幹（沼崎智君） 今回のこの施設は、非常に注目を集めている施設でもあり、また我孫子市にとっても非常に重要な位置づけを持った施設になりますので、景観形成におきましてもその点十分に留意した上で進めていきたいと思っております。

○委員（茅野理君） 公園緑地課にお伺いします。

本市でも令和4年（2022年）から、P a r k－P F Iを手賀沼公園にて導入して3年目になるわけですが、この現況、当初の目的を達成できているのかとか、ちょっとその辺まずお伺いしたいと思います。

○公園緑地課長（山下透君） 令和4年7月から実質オープンカフェ、吉岡茶房さんが開設いたしまして約3年経過しているところですが、地道ながらも集客のほう、あと市の公園行政のほうにも十分理解した上での営業というか、活動ということで進めているような形だと認識しております。

○委員（茅野理君） このP a r k－P F Iの目的ですけれども、やはり市民の利用者が公園で遊ぶだけじゃなく、そういったカフェなどでお茶して魅力向上につながるということもそうですし、収益の一部を公園の整備等に還元していただくというところもこの事業の目的だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○公園緑地課長（山下透君） 委員がおっしゃるとおり、P P F I、社会資本整備を民間の活力で担っていただくという目的の中で、今回のオープンカフェに関しては、いわゆる販売店の整備、あとその前の芝生の広場であったりとか、パーゴラ、あとはベンチ等のいわゆるくつろぎのスペースに関しても整備していただいているところです。

ですので、当然、利益とともにそこら辺の整備も進めていく中で、派手ではないんですが一步一步、直近でいいますと小さな暖炉で寒い時期の暖まりというんですか、小さなぎわいみたいなことをちょっときっかけとしてやってみたりとかいう形で、今様々なチャレンジをしていただいているところです。

○委員（茅野理君） 私自身も娘と暑い日はかき氷を購入したこともありましたが、ちょっと寒い日にスープを出したときがあったので、それを購入してくつろいだというようなこともしているんですね。

やはり収益の一部をとるところもあると思うんですけど、その辺はどういう契約になっているのか。それが年間では幾らとかというのはどうなんでしょうか。お示しできるんでしょうか。

○公園緑地課長（山下透君） 収益の中からの売上げの幾らとかいう形の契約はありません。

ただし使用料として、お貸ししている232.74平米に平米100円の使用料を取りまして、年間12か月換算で27万9,288円の土地代という形で納めていただいております。

○委員（茅野理君） なかなか売上げをとるところも、どうなんでしょう、達成されているのかどうか分らないんですけれども、それだけの契約で年間の使用料を頂いているわけですね。それはそれで本当に市にとってもありがたい財源になるかと思っています。

これは契約は20年ということでしょうか。

○公園緑地課長（山下透君） 認定の計画はおっしゃったとおり20年ですが、今現状の事務上では、まず許可日から10年ですので、まずは令和14年3月10日までの許可という形を取っております。

○委員（茅野理君） ありがとうございます。まだ3年目ですから、10年であればあと2年ぐらい様子見てということもあるのかなというふうに思います。その中で、おしゃれな施設も修繕が出たりとか、そういうこともあるかと思いますが、その辺はしっかり途中でも対応していくということでしょうかね。

○公園緑地課長（山下透君） はい、委員のおっしゃるとおりです。

○委員（茅野理君） ありがとうございます。

それで、この4月から手賀沼公園においてキッチンカーの募集を停止した。ほかの公園はしているけれども、手賀沼公園においてはキッチンカーの出店を禁止したということで、4月からそういうふうになっておりますけれども、この辺はどういうことでそのような禁止をし、ほかの公園では

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

やっているけれども、手賀沼公園ではやらなくなったのか、この辺の御説明をお願いします。

○公園緑地課長（山下透君） 端的な話で言いますと、先ほど委員から様々な御提案あったとおり、P P F I のオープンカフェの年間の売上げの収入が、本来キッチンカーを併用した際の相乗効果を狙ってここ1年半ほどさせていただいていたんですが、現実的には競合してしまって、売上げが毎年1割ずつ落ちているという現状がありまして、オープンカフェの方々からも、ちょっと当初のP P F I の目的の中ではキッチンカーの項目がなかったものですから、そこに関してはちょっとやめていただきたいという申出もあったところなので、まずは本来の公園緑地課の事業であるP P F I を重視するという形で、競合を避けるために令和7年4月からキッチンカーの出店は、手賀沼公園に関してやめさせていただいております。

○委員（茅野理君） 今のお話ですと、やはり利用する市民の方が、せっかく1年半ですか、いろんなキッチンカーがあって、公園で楽しく遊びながら食事したりお茶したりということができたのが、制限されてしまったということですよ、結果。もちろん公園緑地課さんからすれば、P a r k - P F I を導入した。そしてそこに入っている事業者さんの売上げが落ちていけば、それは何らかの対応しなきゃいけないということは分かるんですけども、これまでやっていたキッチンカーを排除するということが、私、本当に市民、利用者にとって公園の魅力向上につながっているのかどうか、大変疑問なんです。いかがでしょうか。

○公園緑地課長（山下透君） 委員おっしゃるとおり、確かに飲食に関する誓約という形で、今回ちょっと規制させていただいた経緯は当然ございます。楽しみにされた方もいらっしゃると思います。ただ、キッチンカー、令和2年のコロナの救済のきっかけで始めて約3年、間1年空いてしまったんですが、やらせていただいている中で、公園緑地課の事業としてだけの観点から言わせていただいて申し訳ないんですが、どうしても定住している、要は移動式の形の結果、まず、キッチンカーさんのほうが、なかなか同じお店が定住して長くやらしてもらえない関係上、なかなか意思の疎通がなかなか取れないものですから、細かな苦情で言ってしまうと、ごみであったりとか、出店場所を守っていただかないことであったり、あるところでは許可がない日にも出てしまっているという実情も実際はありました。

手賀沼公園は、市の職員が常駐で管理しているわけではございませんので、かなり細かな管理ができないという中ではなかなか難しいところがあります。ですが、その中でも最初はコロナという意義がありましたので、そこら辺の救済という目的でかなり頑張ってきたところでもあります。それらを経てオープンカフェを進め、再開するに当たっては当然、P P F I、オープンカフェさんの意思を酌みながらも、出店の場所の制限をしてみたり、競合する販売をして制限して、何とか相乗効果、いわゆる今おっしゃった利用者さんの便益が上がるのではなかろうかということで、ここ1年半頑張ってみたところなんです。結果いい面よりも若干悪い面が少し目立って、売上げを筆頭に、

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

様々な管理の部分でちょっとマイナスの部分も見えてきたところでございます。

ですので、公園緑地課のほうの事業単体として、今後進めていくのはちょっと難しいという判断の下、4月に決定させていただいたところでございます。

○委員（茅野理君） 担当として、御苦労は本当によく理解できます。ただ、市民側からすればです、やはり工夫しながら、今まであったキッチンカー残してほしいというのが当然だと思うんですね。それがやはり公園の魅力にもつながりますし、もちろんこのキッチンカー出すに当たって、ごみの問題とか当然出てくるだろうなと私も思っていました。それと汚れとかですよ。油が落ちたりとかというような心配ももちろんありましたけれども。やはりその辺を解決しながら、市民のために公園を開放するのが市の役割だと思うんですよ。

やはり P a r k - P F I の事業者さん、先ほど吉岡茶房さんって名前出たので私も言いますが、吉岡茶房さんとももちろん競合しない中で、そこは制限すればいいわけじゃないですか、品目を聞いてですね。そういった御努力をしたというのも、もちろん今説明で十分分かっていますけれども、やはりそれで手賀沼公園だけキッチンカーを出さないようにするという、私はその考えがやっぱり少し見直すべきだろうというふうに思っているんですよ。いかがでしょうか。もう、何の策もないという感じなんでしょうか、市として。公園緑地課さんの苦労は分かりました。でも、市全体として考えてどうなんでしょうか。市民のためを思って、これを制限するっていうのは本当いいことなんでしょうか。いかがでしょうか。

○都市部長（中場聡君） 確かに公園のにぎわいと、様々な公園でキッチンカーや飲食ができる各種の公園などもあって、定着している場合に対しては、かなりにぎわい、そのキッチンカーを目指してくるような公園も中にはあったりもします。

令和3年、コロナの救済から始めていますので、令和2年からキッチンカー始めていますが、やはり定着もしていないということと、出たり出なかったりというもので、なかなかキッチンカーの事業者さんも、お客さんが来なければやはりまた多いところに行くというのが現状で、先ほど公園緑地課の課長からもお話はさせていただいております。

この先どうするのかというふうな話になったときに、まず第一に P F I のことを考えて、令和7年度は一旦停止させていただきました。ただ、本当に市全体としてというお考えであれば、今、公園だけではなくて、にぎわいを出すためにということで、キッチンカーについては商業、環境経済部のほうでそういう指針を出したりした中で、公園のほうにもほかの公園に出させていただいているというのがあるんですが、今後、P F I 事業者の意向、それから競合しない形で再びできるのかどうかということも含めて、これは検討していかなきゃいけない事項だとは思っていますが、なかなか試験的にやった中で、それがマイナスに働いてしまっているという大きなハードルはあるとは思っていますが、そこを踏まえながら検討は継続してやっていきたいというふうに考えています。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○委員（茅野理君） もちろんキッチンカーについては、市内業者だけじゃなく市外からも当然来ているわけですよね。ただ、やはり市内の関係者でキッチンカー出している方もいますし、そういった意味では、商業の活性化というところにもつながるわけですよ。ぜひちょっとそこは再考していただきたいなというふうに思います。利用する市民のためもありますし、なかなか公園緑地課さんだけだと、それは制限という考えになってしまうのも理解してしまうんですけども、やはり商業の活性化というところについてもよく考えていただいて、これはちょっと早めに、例えば全く制限するんじゃないくて、その時期、夏休みの期間とかは認めるとか、もう少し何かないですかね。

その辺、市長ちょっとうなずいているので、市長からもちょっと一言いただければと思うんですけど、いかがでしょうか。

○市長（星野順一郎君） 茅野委員の言い分も、公園の担当の言い分も、両方とも理解をしながら話を聞いていました。その中で、やっぱり吉岡茶房さんがあそこ手を挙げて出てきてもらって、最初の予定どおり10年もたずに閉められてしまうようでは、市としての信用を失うだろうというふうに思いますんで、その辺をしっかりとカバーをしながら、あとは市内事業者があそこへキッチンカーを出したいというのであれば、そこは公園ではなくて、例えば商業のほうの視点しかないんだらうなど。あとは出店を許可する、例えば日にち、曜日あるいは季節ですかね。いろんなことを検討しながら、少し市全体で検討していく必要あるかなと。

今の、茅野委員のなるべく早くというのはなかなか難しいかと思うんですけども、出店をした吉岡茶房さんの気持ちというのもある程度踏まえながら、どのエリアだったらばとか、いろんなものを少し検討するお時間が必要かなというふうには感じました。

○委員（茅野理君） 最後にします。

やめる決断も早かった、いろいろ検討した中で1年半やって、この4月からやめたんでしょから、いろいろ検討はしてきたんでしょけれど、事業者からすればね、突然今年から、この4月から切られたという話だと思うので、その辺ぜひ検討は早急に進めていただきたいなというふうに思います。

それと移動販売、キッチンカーの出店についてなんですけど、1日310円なんですよ。この辺もう少し、やはりあれは規則になるんですかね、その辺見直して、私、いろんなお祭りでもね、もう今1万円とか5,000円とか普通に取りますよね。そこまで人は集まらないんでしょけれど、1日310円というこの額も少し見直して、適正幾らなのか分かんないですけども、1,000円、2,000円ぐらいは当たり前にとっていいのかなというふうに思います。その辺の検討もぜひ進めてください。いかがでしょうか。

○公園緑地課長（山下透君） まずキッチンカーの出店料、おっしゃったように使用料条例に基づいて310円という設定をさせていただいているところです。実際、過去の間でもやはりこの議題、

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

課内でも理事者のほうからもお声があったもんですから、様々な角度でちょっと検討は実際この3年してきているところです。

現実問題として、キッチンカーの適正な、特に公共の場所に対する適正な価格というのは今、この世にはほぼないです。民間の場所で高額であったり、無料で出しているところも実際あるという情報を一応いろいろ集めている中で、じゃ、実際適正な額は幾らだろうということで、令和5年の段階で出店されている、登録されている業者さんに1回アンケートを取った経緯がございます。

ところが、やはり実際出ている方に関してすると値上げはしてほしくないということで、適正な額が実際出てきませんでした。結果的に言うと、商業をベースに、これで何かしら公園の例えば施設の当然一助にはしたいところですが、そもそも手賀沼公園も含めて、公園は商業的な観点から私どもちょっと管理していない関係がありまして、本当に上げてしまっても来なくなってしまっても意味がないですし、当然今言ったように、無尽蔵になってしまうのもよろしくないという中で、じゃ、果たしておっしゃるように、特に我孫子のキッチンカーは幾らかというのが、公園単体で正直なところ言うと、出せるということができないという結論が当時ありました。

ですので、先ほど部長のほうからも出ましたように、基本計画みたいなものがありますので、主としての全体的なニュアンスで金額設定していただければ非常にありがたいというのが、当時の私どもの結論ではございましたので、キッチンカー単体でやるにはあまりにも、おっしゃったようにその他5公園しか持っていませんので、条例を大幅に改正するまでの場所ではないだろうというふうに、公園単体では踏んでいます。

ところがキッチンカーの市内全域の中でのということであれば、また話は別ですので、そこに関して言えば、公園のほうから何かという、情報は提供できますが、何かということはないというふうに考えております。

○委員（茅野理君） ぜひ、公園緑地課単体じゃなく、商業観光課と横断的に検討を進めていただければと思います。よろしくお願いします。

○委員（海津いな君） 今、キッチンカーのお話で、私も実はキッチンカーを、手賀沼公園の入り口のところに並ぶんですね。あれ結構人気だったのに、どうしてやめさせてしまったのかということに対して、結構厳しいお声を聞いたりしてましたので、いろいろ説明はしたんですけど、公園緑地課さんがおっしゃるように、場所としては吉岡茶房さんのパークのこういう対応というのと比べると、場所的にかなり厳しいところがあるので、何かあちらに誘導するような流れをつくるということを少し検討できないのかなって思います。

時間がないのであれなんですけれど、市民のお声は結構、キッチンカーに対する行列を見ていたりするのもあったのかもしれないんですが、その辺のところ公園が盛り上がるように、吉岡茶房さんも盛り立つように、ちょっと場所が不利な部分があるので、うまくそこにキッチンカーの集積が

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

できるような何か方策ができないかなと今思いましたので、今後、市民も理解でき、吉岡茶房さんの対応のほうも盛り上がるように、ぜひ検討してください。以上です。

○公園緑地課長（山下透君） キッチンカーの設置の開設場所ということでよろしかったですかね。当初、オープンカフェさんがまだ工事期間中は、多分、入り口の手前のほうまでエリアを開放していたので、多分その印象があると思います。当時コロナ禍だった関係もありまして、キッチンカーの物珍しさもあって、確かにその当時、令和2年の当初、令和3年の頃の集客量はかなりの数でした。オープンカフェさんが開設して1年、休止させていただいて、令和5年7月からまた再開した際には、逆にその配慮をして、手前側のほうではなく、奥の回廊の回転場のところがあるんですが、そこに店舗数も5店を上限とした形の規制を1回かけております。

ですので、令和5年以降のキッチンカーさんは多くのほう、道路からは見えないような場所でやっていたという事実がございます。それでも現実的に出店の数がどんどん減ってしまっているという現状からすると、多分そのにぎわいだった当初の目測に関しては令和6年として、徐々に少なかったんであろうというふうに認識はしております。

○委員（海津いな君） ぜひ、検討していただくようお願いいたします。

○委員長（山下佳代君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） ないものと認めます。

暫時休憩いたします。

午後0時21分休憩

午後1時20分開議

○委員長（山下佳代君） 再開いたします。

次に、建設部に対する質問をお願いいたします。

○委員（坂巻宗男君） そうしましたらちょっと下水道の関係なんですが、本会議で岩井議員が質問されて私ちょっと気になったので、県の流域下水道で、いわゆる湖北台の1キロぐらいの範囲内で、令和5年に県のほうで調査したときに、緊急度Ⅰというような調査結果が出ていますよと。

私も、全くそのこと自体は把握していなかったものですから、本会議場で聞いていて、あ、こういうことがあったのかと思ったんですが。これを市として、例えばどういった形で県から報告を受けているとか、あるいは協議しているとか、そういったことというのはあるんでしょうか、お聞かせください。

○下水道課長（西澤卓君） 一般質問で質問がありました五本松下から湖北台にかけての緊急度Ⅰの件なんですけれども、実は私も4月に下水道課に来てあれなんですけれども、昨年度の2月ぐら

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

いですか、岩井議員のほうから情報をいただいたというところで、それまでは市のほうとしては把握はしていなかった情報でございます。

○委員（坂巻宗男君） それはどうなんですか、県のほうとして県の流域下水道で、我孫子市も当然構成団体というところの中で、その辺かなり重要な調査。異常がなければともかく、緊急度Ⅰということで、本会議では答弁であったのか御質問だったか、1年以内に速やかに措置をするみたいなことだったと思うんですけど。そういった案件であれば、それは当然市道の下を走っているわけでありまして、我孫子市道のね。そういったことから言っても、県のほうから、それこそ速やかに連絡があって、今こういう状況なのということで対応を協議するということがあつていいのかなと思うんですが。その後、下水道課なりあるいは市のほうの道路のほうも関係してくるのかな。その辺でどういった状況に今あるのか、お聞かせください。

○下水道課長（西澤卓君） 今回、こういった形で情報を入手したということになりますので、市としましても、我孫子市内で、しかも市道の埋設下の中で、そういった緊急度Ⅰというような判定が出されていると。幸い県のほうからは、その後、空洞調査を行って、下水道管渠に起因する空洞はなかったという御報告はいただいております。

ただ今後、やはりいつ陥没等起きるか分かりませんから、県のほうとしても、今、6月3日から開庁日に際して職員でパトロールを行っているという情報もいただいておりますから、そのあたり県と情報を密にして、市としてもその状況の把握、そういったところに努めていきたいと、そういうふうに考えております。

○委員（坂巻宗男君） これぜひ詳しい調査内容を入手する必要があるだろうと思うんですね。

いわゆる空洞はないよということであれば、それは一つ安心はするんですけども、一方では緊急度Ⅰで、何らかの劣化している部分などがあるので、それに対する措置をしなければならないという案件になっているということだと思うんですね、緊急度Ⅰということは。それに対する措置がまだ行われていないということではないかと思うんですね。

もし行われていたら行われていたで、報告していただければもちろんいいし、もしそれが行われていないだとすれば、やはりそれは速やかに県のほうで対処してもらおうということにもなってくるし、その辺のスケジューリングとか、繰り返しだけど、そもそもこういったところで何が劣化しているから緊急度Ⅰになったのかというのは、やはり市道を管理するという意味でも重要になってくるので、その辺ぜひ道路課なり下水道課含めて建設部内でぜひ対応して、情報を入手して、それこそ本当に陥没、大きな事故などが起きないように、原因は県のほうの下水道管かもしれませんが、被害を受けるのは道路を通っている市民の方だったり、生活している方々ということになってくるので、そういったことを考えながら、ぜひ対応していただきたいと思います。もう一度御答弁をお願いします。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○下水道課長（西澤卓君） 繰り返しになりますが、情報を密に入手して、どういった状況で緊急度Ⅰという判定になっているのかも含めて、私どものほうとしても状況把握に努めて、またあと道路課のほうとも連携して情報の収集、把握に努めていきたいと、そういうふうに思います。

○委員（坂巻宗男君） この件最後にしますね。

ぜひちょっと情報収集したら、それを我々にも資料として提出してください。やはりかなり、今、先ほどの議案のときの審議もありましたけど、この管路など全国的にやはり皆さん大変な状況にあるということで、市民の皆さんなども興味関心も高いところなので、いわゆる言葉、この今の中だけで終わらせるのではなくて、しっかり資料として出して、この部分がこういうところで劣化しているから緊急度Ⅰで、できれば今後対応はこうしますというふうなところまで分かるものをぜひ出していただきたい。もう一度御答弁をお願いします。

○下水道課長（西澤卓君） 状況を県のほうにもお伝えしながら、資料を御提出していきたいと思います。少しお時間だけ頂戴したいと思います。よろしくをお願いします。

○委員（船橋優君） 今の坂巻委員のちょっと関連してなんですけど。多分あれはシールド工法か何かで布設したやつじゃないかと思うんですけど、実際にあれは、道路面から深さはどれぐらいの位置に入っているか。もし分かれば今、お願いしたいんですけど。

○委員長（山下佳代君） 暫時休憩いたします。

午後 1 時 2 7 分休憩

午後 1 時 2 7 分開議

○委員長（山下佳代君） 再開いたします。

○下水道課長（西澤卓君） おおむね土かぶりで5メートル少しあるぐらいかと思います。

○委員（船橋優君） 分かりました。

私もよくあの道路は昔から通っていますんで、土かぶりが5メートルぐらいあれば、まだそんなに近々でどうということは多分ないと思うんですけど、危ないのは危ないと思うんでね、気をつけていってあれしてもらいたいと思うんですけど。

もう一点、別件なんですけど。倒木じゃないんですけど、以前、湖北の特別支援学校の西側の細い道路の枝を大分危ないというんで切ってもらったやつなんですけど、あれが切った残材が持ち出されてなくて、あのところに置いてあるんですよ。置いてある場所は、やはり道路が傾斜になっていて、今それが道路にごろごろ転がってきていて、通行している車でたまに通る人が、直径が10センチぐらいの結構大きなものもあるんでね、車が乗かって傷がつくと。

それともう一つは、坂なので、小学生が上から自転車で下りてくるのに非常に危険だから、あれをもし持ち出さなければ、くいか何か打って縛って転げ落ちないようにしてくれないかということ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

を私のところに大分話に来てはいるんですけど、その辺どうでしょうかね。

○道路課主幹（中村貴政君） 御指摘の箇所について、まず現地を確認して、その状況を踏まえてしかるべき対応をしまいたいと思います。

○委員（船橋優君） じゃ、よろしくをお願いします。以上です。

○委員（坂巻宗男君） ちょっと簡潔に1点だけです。

治水課の関係で、ちょっと毎年この時期、雨の時期がこれから入ってきて質問している、いわゆる手賀沼の水位との関係というところになるんですけど。これから、大雨、台風シーズンを迎える中で、やはり我孫子の場合、手賀沼の水位というものによって市街地側の水害の影響というのは大きく出てくるわけですね。布佐から若松辺りなどを中心に。今は当然お米の時期ということもあって、手賀沼の水位を上げているという状況なので、この時期に大雨などが降られるのは非常に怖いというところがあるんですけど、そういう中で、例年国などと当然連絡を取りながら、大雨などがある程度予測できる段階では、水位を下げて水害に備えるということをやっているかと思うんですが、その辺についてまずお聞かせいただけますでしょうか。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 手賀川、手賀沼の水位は、国と県が連携しまして、かんがい期はY P 2. 2メートル、非かんがい期はY P 1. 8メートルで管理しています。

出水が見込まれる際は、事前放流ということで手賀沼の水位を下げていただくことを、利根川の流域治水対策として行っていただきまして、現在も密に連携を取りながら、最近でもちょっとした降雨でも事前放流のほう行っていただいていることを確認しています。

○委員（坂巻宗男君） いわゆる台風などがある程度発生して何日かたって来るよと。昔なら大体1週間ぐらいの期間があって分かって、最近だと3日ぐらいでも来ちゃうみたいなどころもあるわけですけど。

いずれにしても、ただ、ある程度台風などは予測がつくので準備できる期間がある。ところがゲリラ豪雨、今日だってすごい暑いですけど、もしかするとにわかには雷雲が発生してみたいなことだって、100ミリぐらいの雨が降ることだってあるかもしれない。そういうふうな時っていうのは非常に対応が難しいかなと思うんだけど、今のお話だと、今年度に入っても既に国・県などの協議の中で下げている事例はあるということになりますでしょうか。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 我々も国・県と情報を密に連携しているんですが、国と県のほうで交わしている覚書が、令和7年3月31日付で更新されまして、今まで20センチ水位管理を下げられるというお話だったんですけども、近年のそういう大規模な降雨に対して、さらに20センチ下げられるということを加えて、新たな覚書が締結されました。

この内容は、我々のホームページのほうで周知させていただいているものですから、最大で40センチ下げただけということ、国のほうも最近の内水浸水に対して、手賀沼の事前放流が

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

有効であるということは分かっていますので、そこまでいかなくとも5センチであったり10センチであったりとか、運用の範囲もあると思いますが、かなり水位管理は気を遣ってやっていたというものと認識しています。

○委員（坂巻宗男君） ありがとうございます。

今まで最大で20センチだったのが、さらに増えて40センチになったと。非常に重要なことだと思います。この時期でYP2.2メートルだったものが、最大だと1.8メートルまで下げるといふような形だから、いわゆる田んぼに水を入れない時期のYPに落ち着くということなので、ある意味では大きな貯留地ができるというかな、調整池ができるみたいなイメージにもなるので、非常に今、重要な運用の向上があったということかなというふうに思いまして安心しました。

私、この間ちょっと気になったのが、我孫子のほうはほとんど降っていないんだけど、どうも柏市のほう、流山市のほうで結構強い雨が降ったときがあって、手賀沼の水位が何か増えているなというふうに感じたときがあったんですね。だから、ああいうときっていうのはちょっと怖いなと思っていて、我々、我孫子市側としては雨を感じないのに、手賀沼の水位だけが上がってしまうというふうなことなどもあったりする。我々、手賀沼という意味では下流部になるわけなので、こちらで結局は影響を受けるというようなこともあるので。我孫子だけの雨じゃなくて、そういう意味での手賀沼の上流部などでの雨も、ゲリラ豪雨など特に気にしていかなくちゃいけないなというふうに思ったりするんですが。その辺もぜひ、治水のほうで、当然もういろいろな気象データ等々駆使されていると思うんですが、幅広く見ていただいて、本当に少しでもこの夏以降も水害の出ないような形で対応していただければと思いますので、最後、御答弁をお願いします。

○治水課主幹（佐藤雄司君） 令和6年の6月頃、手賀沼の水位がかなり上昇して、若松の一部がかなり水がたまってしまったということもございますので、あのときも我孫子市ではあまり降らずに、柏市のほうが降って手賀沼の水位が上昇したというような内容でした。

我々も我孫子市の降雨状況を見ていますが、やはり雲は流れてくるものですから、もう少し広域的に見て、手賀沼に影響しそうなことが予測された際には、国とそういう情報連携を密に図っていくように、これからも努めていきたいと思っています。

○委員長（山下佳代君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） ないものと認めます。

暫時休憩いたします。

午後1時37分休憩

午後1時40分開議

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○委員長（山下佳代君） 再開いたします。

最後に、環境経済部に対する質問をお願いいたします。

○委員（海津いな君） 環境ですと聞かなければならないリサイクルのことなんですけれど、実際問題として、新しい施設ができて、クリーンセンターが稼働したということで、リサイクルのほうは、逆に言いますとどんどん捨てられることで焼却できるみたいな認識になってしまっても困るので、そのリサイクルに対する認識づけというのは、きちっとできているのかどうか。そのあたりは担当としてはどんなふうにお考えでしょうか。

ちょっとお昼もごみ箱の中を見てみましたら、プラスチックのお弁当が捨ててあったりとかするんですね。そうなるとうちの方ではないかもしれないんですけど、そういうところにも表れているのではないかなと思いますので、リサイクル、それから焼却炉の稼働が始まって、有力に焼却できるようにはなったんですけど、市民に対してそういったメッセージというんですかね、どういうふうに伝えられているのか、そのあたりのところはどのように認識されているか、確認させてください。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 新しい焼却施設であったり、リサイクルセンターがもしできたときに、それによって分別がきちんとされないというのは、これはもうあってはならないということにはなると思います。

今回リサイクルセンターを整備するというときには、分別についての周知等はホームページやSNSとか、そういったところで徹底していきたいと思います。

○委員（海津いな君） ありがとうございます。

全国に先駆けて分別収集をするという我孫子市であったわけですけど、やはりそのきっかけというのは、かなり市民が分別しなければならぬような事情を抱えていたカドミウムの問題なんか、畑に流れ出して皆さんに危機感をもたらすようなことがあったわけですね。

新たに施設ができてくると、都市から流入していらっしゃる方たちもありますし、そういった都内でごみが捨てられる状況というのは、何でも焼却炉が対応できているということなのかと思いますので、そのあたりを再度認識させていくために、何か我孫子市がこれまで構築してきた分別収集、それからごみを減らしていこうという意識づけをするために、やっぱり令和になってからどのようなお考えというものをきちっとメッセージ出せているか、ちょっとそのところが弱いのではないかなと思うんですが、もう一度考えをお聞かせください。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 確かに各事業者によってその分別の方法とかが異なってくるというところがございますので、もともと我孫子に住んでいる方は、きちんとその分別方法を周知徹底されているというところがある反面、ほかから流入してきた方については、その前に住んでいたと場所との分別の差異というのがありますので、そういった方々、これは市民も含めてなんです

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

けれども、その分別の方法とかそういったことについては、先ほども申し上げましたが、ホームページとか、そういったところで周知をこれからもしていきたいと思います。

○委員（海津にいな君） ホームページはすごく有益な手段だと思いますし、スマホによってお手元で見るという機能も備わってきましたけれど、これ文京区の例なんですけれど、近隣センターなどで、どういうふうに分別しているかというのを、もうそこが一つの集積所になるような形で、具体的な瓶ですとか缶ですとか、全部じゃないのかもしれないですけど、そこに置いて市民にやっぱり伝わるように、物として伝わるようにしているので、外国人も増えてきた折なので、今までのように紙を渡して分別収集する。幾つ分別しなきゃいけないというのを数として伝えるだけじゃなくて、何か新しい方策として外国人にも分かるように、それから市外からいらした方たちにも、我孫子のごみ収集に大変莫大な費用をかけているということが手に取って分かっていたるように、もうちょっと積極的なアピールをしていただきたいと思うんですが、要望としてお願いしておきます。

それから次に行っていいいでしょうか。

この処理費用なんですけれど、このところのいろいろな値上がりに関して、事業所と家庭ごみというのが幾らか、ランクづけで家庭ごみが安かったようなんですけれど、この見通しとしては、家庭ごみというのはどのような処理費用がかかっているのか、このところの状況をお伝えください。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 実際に家庭ごみに対する処理費用が幾らかというちょっと具体的な数字は持っていないところですが、事業所でも家庭ごみでも焼却するんであれば一緒に焼却をしているところにはなりますが、処理費用として、例えば人件費だとか、そういったところについてはやはり上昇傾向にあるというところから、若干処理費用が上がっているのは、そんな傾向にあるというところではあります。

○委員（海津にいな君） ちょっとだったらいいんですけれど、倍近く上がっているなんていう情報もありましたので、その辺のところをやはり、ごみというのは形として見えなくなってしまうものなんですけれど、そういったことも市民にもお伝えするように、ごみを燃やしてしまっただけでゼロになるのではなく、それに費用がかかっているというようなことも具体的に市民に伝わるようにお願いしたいと思いますし、このごみ処理の手数料については、後でちょっと調べて数値を教えてくださいたいと思います。

○資源循環推進課長（川村憲司君） ごみ処理に関する費用、どこまで出せるかちょっとまだ分からないんですけれども、後ほどお知らせいたします。

それと、その費用がかかるというところ、先ほどホームページ等って話をしましたが、今クリーンセンターのほうに見学なり、子どもが来たりするところがあるので、まずそういう小さい子から、

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

ごみってこれだけお金かかるんだよとか、分別って大事なんだよとかというところも含めて啓発していきたいと思います。

○委員（茅野理君） 私からは商業観光課になると思います。いわゆる物価高騰対策というんですかね、国でもそうですけれども、あちこちの自治体でも最近いろんな事業を行っているのを聞いております。

千葉県においても、この議会で示されていましたが、総額30億円の、あれは交付金だと思えますけれども、それを利用して、いわゆるキャッシュレス決済に対するポイント付与事業を行うということで、この8月1日から17日まで行うということで発表されました。

我孫子市でも、コロナの時期に2回ほど20%のポイント付与事業というのをやったわけですが、やはり今この物価高騰だったり、県内、市内の消費の喚起対策事業として行うべきタイミングかなというふうに私ちょっと思ったんですけど、その辺何か、前回の2回のポイント付与事業なども見て、検討なんかしているのかどうか。ぜひ検討してほしいなというふうに思っているんですけど、いかがでしょう。

○商業観光課長（秋田芳博君） 過去に国の交付金を活用してキャッシュレス決済のサービス、2回ほど実施しました。今年、夏に千葉県のほうで実施されるという情報も我々も持っています。

今後なんですけれども、なかなかその財源的なものもありますので、ちょっと市単独で実施するというのはちょっと正直なところ厳しいのかなとは思っていますけれども、ただ今年度、商店会単位で、商店会さんはちょっと一部Pay Payの事業をちょっと、原資は当然、市や県とかというのと比べると少ないですけれども、地域でのという形で実際にやっている商店会さんもありますので、引き続きそういうところも踏まえて検討はしていきたいと思います。

○委員（茅野理君） 湖北台でしたかね、独自でやられていたのも知っているんですけど、あれもでも、正直我孫子市内全域にちょっと知られてなかったなというふうに思っているんですよ。私なんかは情報を得ていますけれども。あれも、ぜひちょっとあの商店会だけだとなかなかPRがということだと思うので、市全体で広めてほしかったなというふうに思っているんですね。その辺をちょっと反省して、今後そういうことであれば、いろんな商店会で行うのであれば市も一緒になってPRしていただくことが大事かと思います。いかがでしょうか。まずそのPRの部分について。

○商業観光課長（秋田芳博君） この間の湖北台というお話ありましたけれども、湖北台の商店会でやりましたけれども、湖北台商店会の範囲ということでしたので、今後商店会さんからそういうお話があれば、それを全市的にPRしていいものなのか、またその地域で独自に取り組んでいきたいという意向も聞きながら、その辺のPRはしっかりやってきたいと思います。

○委員（茅野理君） よろしくお願いいいたします。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

過去2回我孫子市で行った、2億円交付金使いながらやったわけですがけれども、あれも非常に経済効果、7億円以上の売上げがあつてということで示されたかと思うんですけれども、やはり市内の飲食店なんかも、非常にお客さん少ないということで嘆いていますから、私は千葉県のこの8月に行うものに乗かって、さらに20%のポイント付与とか行ってほしいなというふうに思っているんですよ。ぜひちょっとその辺の過去の検証踏まえて、ちょっといま一度検討していただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○商業観光課長（秋田芳博君） 過去2度に行ったキャンペーンもかなり売上げ等々も踏まえて、かなり経済効果も大きかったものなんでしょう。

今度の県と同時にということになりますと、もう8月に県がスタートしますので、今の段階ですぐさまというところはちょっと財政的な面も踏まえて、多々協議が必要になってくるかと思えますけれども、ただ過去2回のもものも、事業者さんからも、利用者さんからも、大変好評だったということもありましたので、ちょっとそこはいろいろな面等調整しながら検討していきたいと思えます。

○委員（茅野理君） 定例会踏まえるとなかなか進められないのは分かるんですけれども、臨時会を開くなり、補正予算を組んでできると思うので、ぜひその辺検討を進めていただきたいなというふうに思えます。

2億円の交付金使って7億円以上の売上げがあつて、それが全てではないでしょうけど、たばこ税で2億円以上戻ってきた感じだと思うんですよ。非常に23年度、24年度のたばこ税上がつていて、あれってやっぱり市内以外の人、我孫子市内でやっぱりポイントつくからというんで、たばこを買いに来たということもあると思うんですね。

その辺財政もいろいろ検証はしたんだと思うんですけれども、それが全てではないですけども、テレワークの影響なんかもあるわけですが。そういった意味では2億円投資しても2億円以上の効果があるし、いわゆる税金で戻ってくる可能性もあるわけですから、それほど大きな財政負担ではないかなというふうに感じています。ぜひその辺、検証を進めていただければと思います。先ほども言いましたけれども、市内の飲食店のためにも、これ潰れちゃってね行く店なくなっちゃいますよ本当に、今しっかりやらないと。ぜひその辺、検討を進めていただきたいと思えます。

○商業観光課長（秋田芳博君） 今の御指摘の点も踏まえて、財政部局とも協議をしながらちょっと前向きに検討させていただければと思います。

○委員（茅野理君） それから生の声を聞くわけですね、市内事業者さんから。特に飲食店なんですけれども、いろいろ何て言うんですかね、ポイントカードとか、いろいろ飲食店を幾つか巡る、判こ押すとか、スタンプラリーみたいな、ああいうのを地域でやったというのも聞きますし、もう少し広げて我孫子市内の中でスタンプラリー、飲食店とか買物とか、そういうのを市全体で少

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

し手だてとしてできないか。どうでしょうか。

○商業観光課長（秋田芳博君） スタンプラリーにつきましては、手賀沼中心になりますけれども、おととしから柏市、印西市と連携をしながら3市周遊のスタンプラリーを実際にやっています、そこはどっちかというとお寺であったり、見るところをメインでやっていますけれども、その中には多少飲食店も含めさせていただきました。

今年度も、今、柏市さんが幹事になってスタンプラリーを継続してやる予定ですので、そちらのほうの中で、飲食店であったり、市内外から我孫子に来られる方のためにちょっと何か工夫はしていきたいと思います。かつ、様々なところで商工会であったり商店会の皆様ともお話しする機会もありますので、そちらの今お話しいただきました飲食店限定なのか、どういふのかは分かりませんが、スタンプラリーについてはちょっと様々な方たちとお話をさせていただきながら研究させていただければと思います。

○委員（茅野理君） 最後にします。

先ほど公園緑地課と、ぜひ商業観光課さんと横断的に事業を推進してほしいという話しましたので、それはそれでやってほしいんですけど。それと別で、商業観光課さんは、ぜひそのスタンプラリーを教育委員会を巻き込んで、やはり子どもって結構そういうスタンプ集めたり好きなわけですよ。大人の感覚じゃなくて、ぜひその子どもたちが喜ぶようなものを作ってもらって、もちろん子ども一人で食べ行くわけじゃないわけです。家族で行くわけですから、ぜひその子どもを巻き込んで何かスタンプラリーというのを考えて打ち出してほしいなというふうに思っています。その辺、課長よろしくお願いします。

○商業観光課長（秋田芳博君） 今商店会や商工会ともお話しさせていただくという形で答弁させていただきましたけれども、その具体的な内容の中には、そういったお子様も家族も楽しめるような工夫をするというところの検討も踏まえてお話をさせていただければと思います。

○委員（海津にいな君） リサイクルの話も、それからクリーンセンターなどの話も、非常に金額のかかることなので、なかなか整理してここへ提示するのは難しいんですけど、今、出ている数字では、リサイクルセンターのほうの97億円という数字なんですけれど、これは精査したいと思うんですけど、この中には土壌汚染の対策費は含まれていなかったのでしょうか、その辺のところを明確にお願いしたいと思います。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 97億円の中には土壌汚染の工事は入っておりません。

○委員（海津にいな君） この間、湖北のところでボーリングの作業をしまして、いろいろな土壌の状況というのをちょっとつぶさに見たわけなんですけれど、やはり新リサイクルセンターに関しても、こうしたボーリング調査をするということがまず行われて、そして土壌汚染の対策というのを次に考えるという段階になりますか。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 土壤汚染の対策については、今、公告に出しています旧クリーンセンターの解体、これと同時に土壤汚染対策をするということになっています。

○委員（海津にいな君） そうしますと、それは17億円だったですか。焼却炉の解体費用ということになりますよね。その中に土壤汚染の対策費用も含まれて計上されたということで理解はよろしいでしょうか。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 約17億円の中に解体工事と土壤汚染対策工事が含まれております。

○委員（海津にいな君） そうしますと、安くできる場合もあるかもしれないし、これ以上になる可能性もあるということなんでしょうか。

消防の跡地では想像つかなかったので、汚染というよりは液状化ということでしたけれど、そんなようなまた別建てのことが起きる可能性もあつたりとかしますけど、この中で十分対策できるという金額なのでしょう。17億円も巨額だと思いますので、減ることを願っていますけれど、その辺のお見積りはどうなのかというのを教えてください。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 現在入札で出しておりますので、その入札によって価格が多少でも下がるというところを期待しているところであります。

また、解体工事が始まってから、予期せぬものが出てきてしまった場合には、もしかすると費用の増額等が見込まれるかもしれないですけれども、それについては実際に工事が始まってみないと何とも言えないな、そんな感じになっております。

○委員（海津にいな君） ボーリング調査というのも、つぶさにこの間見せていただけましたので、作業としてはかなり工事としても難しいことをされているんだというのが分かりました。

では、この解体に関して、いろいろな地域でも焼却炉というのは対応しなきゃならない年月がたっていると思うんですけど、他の自治体がどういう状況にあるかというのは、担当課としては何か情報収集されていらっしゃるのでしょうか。そこをお知らせください。

○資源循環推進課長補佐（小嶋敬一君） 他市の状況なんですけれども、それに特化して調査しているわけではないんですけれども、お隣の柏市の場合であれば、北部のクリーンセンターがまた基幹工事、改修の工事に入ったり、あとは印西市を含めた印西地区環境整備組合なんかは新しくクリーンセンターを建設したりということで、いずれも建設してから期間がたって建て替えの時期に全国的になっている傾向だと思われまます。

○委員（海津にいな君） 全国的に焼却炉の年度とすると、それぞれが建て替えの時期を迎えるような段階にはなっていると思うんですけど、国がこれに対してどのような対策、対応を迫られているかというのも、それなりにやはり大きな施設になりますので、何か調査をしているんだらうなと思うんですけど、そのあたりは県ですとか、それから国がどういうふう動いているかと

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

いう動向は、担当課としては何かつかんでいらっしゃる、調査していることはございますでしょうか。

○資源循環推進課長（川村憲司君） まず国のほうですね、環境省のほうでは、令和6年3月に中長期における持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化、そんなような通知を出しております。これを受けて千葉県においても今年度、集約化計画の策定作業を進めているというところになります。

○委員（海津いな君） 最近、そういった県のほうも対応するように考えているんだというのが最近の情報ですので、なかなか全体的に捉えにくいのかと思うんですけど、国ももちろん環境問題って全体で考えなければならないので対応しなきゃならないと思いますけど、当然その広域化に対応してどういうマッチングがいいとかというのは、これから考えられると思いますので、やはりそういう広域化の流れというのを我孫子市としてもひとつ踏まえて考えないといけないと。単に柏市とか隣接しているというだけで広域化というのを考える一方で、やはりそれに対する広域化に取り組むという姿勢を、補助金であったり何かしら率の形で出てくる可能性があるということですので、その辺の情報を収集しなければならないと思いますが、これからの対応として広域化についてはどのような見解をお持ちになっているか、確認したいと思います。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 広域化というか、その財源の問題からして、もうこれは全国的にどこの事業体も同じようなことになっておりますので、国としても広域化をこれから進めていこうというような、そんな流れにはなっております。

我孫子市においても、広域化なり共同で何かできないかという検討を進めているところではありますけど、今回ちょっとその調整がなかなかうまくいかないというか、調整が図れないというところで、我孫子市は独自に整備を進めていくということにはなっておりますが、次のといっても、20年とか30年とかそういう先にはなってしまうんですが、そのときには広域化をにらんだ方法で検討せざるを得ないのかなというふうには考えております。

○委員（海津いな君） 広域化のグループというのができてしまうと、やっぱり広域化というのを手を狭めてしまうと思いますので、我孫子市だけで考えるということが広域化じゃないわけですね。相手があって、それからその調整が必要になってくると思いますので。ぜひともその次の20年とか、そういうスタンスではなく、今は国のほうも広域化率を80%に引き上げる。なぜならば、もう人口問題が非常に喫緊な問題になっていると。人口イコールごみの量にも影響してくると思いますので、その辺のところを10年後とか20年後ではなく、もう今まさに考えないといけないと思いますので。片一方で新リサイクルセンターの話もございますけれど、広域化のチャンスというのを逃さないように、やっぱりお隣があって、広域を組める相手があってなので、その辺の調査は早速に取り組んでいかなければ新しい時代に乗り遅れてしまうと思いますので、その辺の御覚悟

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

というのをお聞かせいただきたいと思います。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 先ほど20年とか30年ということで、ちょっと誤解を招いてしまったかもしれないんですけども、例えば焼却施設を一つ造るに当たっても、2年、3年ではあるものではなく、その前段での地元との調整であるとか、いろんな調整事があるって、相当の年月をかけて出来上がるものだと思いますので、そこに乗り遅れないように、もうなるべく早めに手を打って調整はしていきたいと思います。

○委員（海津いな君） あとやはり、建てる、そしてまたそこで独自の事業をしていくということには非常にエネルギーもかかりますし、経費的なコストもかかります。広域化にすることによって、それがやっぱりうまく3Rの一つの効果も産んでくるCO₂の排出なんかも減ってくるということがありますので、ぜひ後回しにせず、早速にそういう広域化の研究というのはきちっと進めていただくように、この回にお願いしたいと思いますので、担当課としてはもう一度そのお答えをお願いいたします。

○資源循環推進課長（川村憲司君） 広域化の問題についてはこれも我孫子市だけでなく、ほかの事業体もその人口減少等で抱える問題とは認識しております。継続して、近隣の市町村であったり、県だったり、そういったところと連携しながら広域化については検討していきたいと思います。

○委員（坂巻宗男君） すみません。リサイクルセンターの関係で1点だけ。

これから1年ぐらいかけてリサイクルセンターについては、いろいろ発注支援業務などを行って、来年の5月ぐらいい入札を出して。解体工事に関してはこの6月入札で決めて、9月に契約行為に行きたい。これも若干遅れ気味なわけですけど、行きたいということですよ。だから継続的にまだ議論できるかなと思っているんですけど。

今回97億円というふうな一つの大きな額が示されたんですけども、この中で、いわゆる国庫補助などというのは、財源としてはどれぐらいで見込んでいたんですか。いわゆるプラ新法などに関わる補助がつくというふうな見込みというような資料をもらったりはしているんですけども、割合というのは出ているんですか。

○資源循環推進課長補佐（小嶋敬一君） 国庫補助につきましては、環境省の循環型社会形成推進交付金を引き続き活用を予定しております。補助対象事業費に対しましては3分の1つくという条件で交付申請をする予定しております。

○委員（坂巻宗男君） そうすると、ざっくり言って3分の1だと30億円ぐらいを一応見立てとしては持っているというふうな感じでよろしいですか。

○資源循環推進課長補佐（小嶋敬一君） おっしゃるとおり3分の1程度を見込んでおります。

○委員（坂巻宗男君） ぜひそこら辺は財源として極めて大きなことになるので、国の情報で3分の1であったとしても、いわゆる他との競争の中で、全体枠があったとしてもそこまで取れないと

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

というようなことだってあるでしょうし、その辺の情報もしっかり入れながら、来年度の入札に向けて財源というものをやはりしっかり確保していただきたい。

クリーンセンターの場合は、そういった補助以外にも、いわゆる特別交付税ですか、災害の関係の市長などが随分関係省に赴かれたという話も聞いていますけれども、そういったことで、別な財源を見つけてきて確保したということもありましたよね。ですから、そういった点も非常に重要になってくると思うので。これだけ大きな額のものを進めるというときには、当然入札としての積算も出てくるんですけども、やはり財源を市の財源だけじゃなくて起債は起債でももちろんあるわけですけど、やはり国の補助というところが極めて大きな部分、あるいは何らかの別な交付税措置的なものも含めて、ぜひそこは幅広く検討研究して国などとぜひ情報連携してしっかりと把握をしてもらいたいと思います。もう一度御答弁を願います。

○資源循環推進課長補佐（小嶋敬一君） 御存じのとおり、我孫子市は今、財政が非常に厳しい状況になっておりまして、全庁的にもその財源はないかということで、我々も企画財政部局とも調整しまして、新しい交付金があったら企画財政部局から情報をいただきますし、我々もこれが使えないかということで協議を進めていきまして、新たな歳入策がないかどうかは引き続き検討探っていくながら、歳出もなるべく削減できるような方向で事業を進めていきたいと思っております。

○委員長（山下佳代君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山下佳代君） ないようですので、所管事項に対する質問を打ち切ります。

以上で本委員会を散会いたします。

午後 2 時 1 6 分散会